

総合計画見直しのための 住民アンケート調査

結果報告書

平成 26 年度

新 城 市

目 次

序 章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
3. 回収結果	
4. 本報告書における注意事項	1
第1章 回答者の属性	2
1. 性別	2
2. 年齢	2
3. 家族構成	3
4. 子どもの人数	4
5. 職業	5
6. 住まいの地区、小学校区	5
7. 居住年数	6
第2章 公共サービスに対する満足度	7
1. 満足度	7
第3章 市のこれからのまちづくりについて	19
1. 定住意向	19
2. 定住対策	22
3. 地域の自治活動への参加意向	24
4-1. 自治活動への参加状況	26
4-2. 自治活動への参加のきっかけ	28
4-3. 自治活動に時間が取れない理由	29
5. 少子化対策	29
6. 将来への不安	32
7-1. 公共サービスへの住民負担	34
7-2. 負担増やサービス低下がやむを得ない公共サービス	36
8-1. 新都市の将来の姿	37
8-2. 利用したい情報サービス	41
9. 新都市の魅力	41
第4章 市役所職員について	43
1. 市役所職員の印象	43
1-2. 心に残る市役所職員の対応	45
第5章 新東名高速道路のIC設置による変化について	46
1. 期待すること	46
2. 不安に思うこと	47

序章 調査の概要

1. 調査の目的

本市では、平成 20 年度にスタートした「第 1 次新城市総合計画」に基づき、さまざまな施策を行っており、これまでの評価及び、平成 27 年度から平成 30 年度の後期基本計画策定の参考とするため、市内の住民の方々から、公共サービスの満足度やまちづくりについての考えを把握することを目的とします。

2. 調査方法

本調査の概要は以下に示すとおりです。

- (1) 調査地域 : 新城市内全域
- (2) 調査対象 : 市内に在住する満 18 歳以上の住民
- (3) 対象者数 : 5,000 人
- (4) 抽出方法 : 住民基本台帳より、地区別、年齢階層別、男女別の抽出率を設定し、無作為抽出
- (5) 調査方法 : 郵送による配布・回収
- (6) 調査期間 : 平成 26 年 5 月 19 日 (月) ～ 6 月 2 日 (月)

3. 回収結果

アンケートの回収結果は以下に示すとおりです。

配布数	5,000 票
有効回収数	1,924 票
有効回収率	38.5% (平成 22 年 : 42.3%、平成 19 年 : 54.3%)

※なお、1,925 票の回収を得ましたが、うち 1 票は白紙等であったため、無効票として扱い、1,924 票を有効回収数としています。

4. 本報告書における注意事項

- 図中の構成比 (%) は、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しました。そのため、複数回答はもちろんのこと、単数回答の場合でも必ずしも合計は 100.0% になりません。また、クロス集計については、「無回答」を除いて再集計していること、満足率などについては回答項目を一部分、再集計しているため、四捨五入等の関係でグラフ・図中の構成比とが一致しないことがあります。
- 表、グラフ等の見出しおよび文章中の選択肢の表現については、趣旨が変わらない程度に簡略化しているものがあります。
- 回答率の母数は、原則としてその質問の回答者数であり、表、グラフ内では「n=〇〇」と表示しています。なお、クロス集計や満足度については「無回答」を除いているため、市全体、地区別、年齢別での母数が一致しない場合があります。

第1章 回答者の属性

1. 性別

問1 あなたの性別をご記入ください。

◆回答者の性別は、男性が42.5%、女性が56.8%となっています。

○回答者の性別は、男性が42.5%、女性が56.8%と、無回答が0.7%となっている。

○住民基本台帳人口（日本人）では、平成26年4月1日現在、男性が24,037人（49.3%）、女性が24,738人（50.7%）のため、今回の調査結果は、市の状況に比べて男性の回答がやや少ない結果となっている。

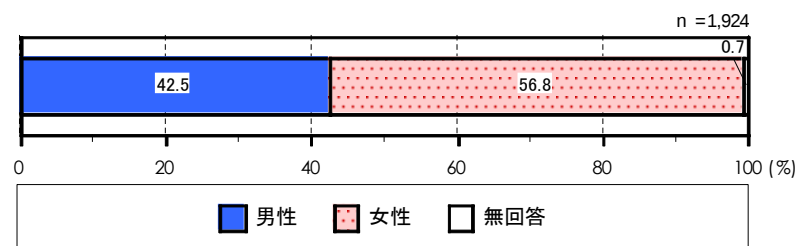


図 1-1-1 回答者の性別

2. 年齢

問2 あなたの年齢をご記入ください。

◆回答者の年齢は、「60～69歳」が最も多くなっています。

○回答者の年齢は、「60～69歳」が19.7%で最も高く、次いで「40～49歳」が18.2%、「50～59歳」が17.8%となっている。

○地区別に見ると、新城地区と鳳来地区では「60～69歳」の割合が高くなっているが、作手地区では「30～39歳」の割合が高くなっている。

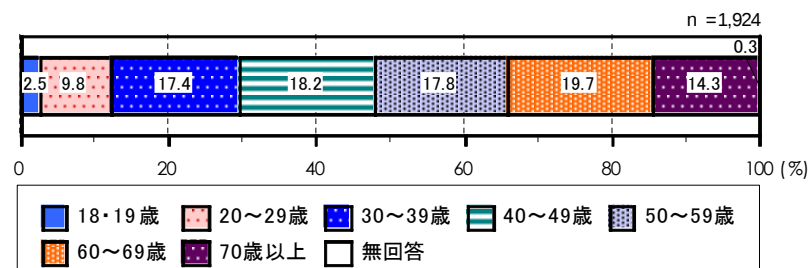


図 1-2-1 回答者の年齢

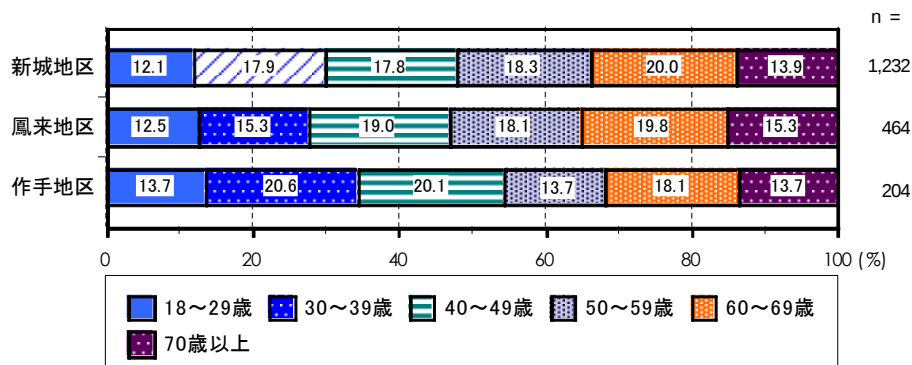


図 1-2-2 回答者の年齢（地区別）

3. 家族構成

問3 あなたの家族構成をご記入ください。

◆回答者の家族構成は、「二世世代世帯」が多くなっています。

○回答者の家族構成は、「二世世代世帯」が 47.7% で最も高く、次いで「三世世代世帯」が 22.7%、「夫婦世帯」が 20.1% となっている。

○地区別に見ても二世世代世帯が多く、特に新城地区では 51.5% を占めている。なお、作手地区では単身世帯や夫婦世帯、三世世代世帯の割合が高くなっている。

○なお、これは、回答者数を基に作成したものであり、実際の世帯数の構成比を示すものではありません。

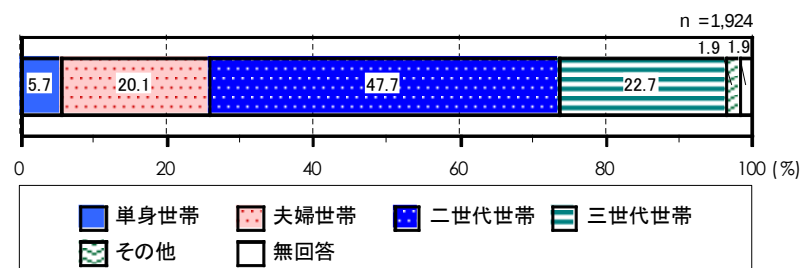


図 1-3-1 回答者の家族構成

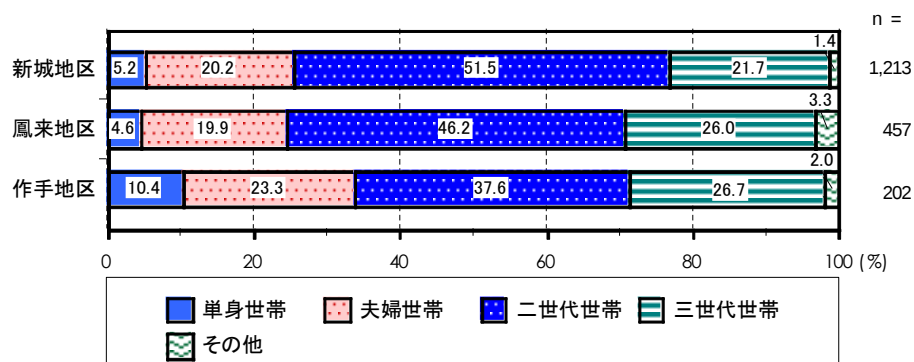


図 1-3-2 回答者の家族構成（地区別 [無回答を除く集計]）

4. 子どもの人数

問4 あなたの世帯の18歳以下の子どもは。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

◆18歳以下の子どもがいない世帯は59.6%で、子どものいる世帯では「小学生のいる世帯」が多くなっています。

○「18歳以下の子どもがいない」と回答した世帯が59.6%に達している。

○子どものいる世帯の内訳としては、「小学生のいる世帯」が16.8%、「乳幼児のいる世帯」が13.3%、「中学生のいる世帯」が11.1%、「高校生のいる世帯」が10.8%などとなっている。

○地区別に見ると、市全体と比較した場合、作手地区で「18歳以下の子どもがいない」と回答した世帯が67.7%とやや高く、鳳来地区では「乳幼児のいる世帯」が、新城地区では「小学生のいる世帯」の割合が高くなっている。

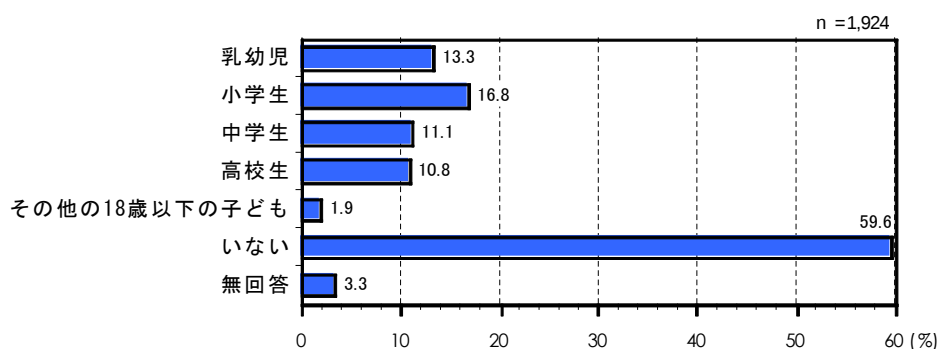


図 1-4-1 18歳以下の子どもの有無[無回答を含む集計]

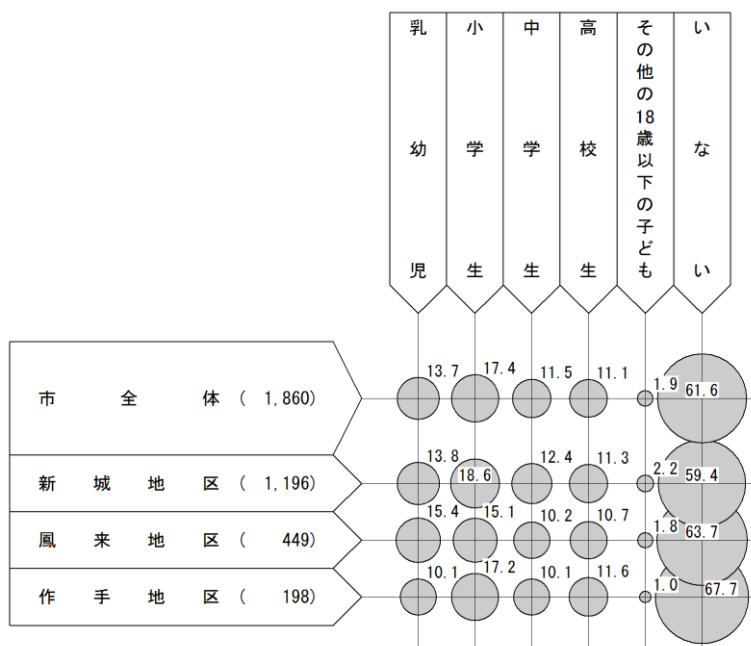


図 1-4-2 18歳以下の子どもの有無 (地区別 [無回答を除く集計])

5. 職業

問5 あなたの職業をご記入ください。

◆回答者の職業は「会社員・団体職員」が多くなっています。

- 職業については、「会社員・団体職員」が 30.6%で最も高く、次いで「無職」が 19.3%、「パート・アルバイト」が 18.3%、「家事専業」が 10.4%となっている。
- 地区別に見ると、鳳来地区では「会社員・団体職員」の割合が、作手地区では「農林業自営業者」と「パート・アルバイト」の割合が高くなっている。

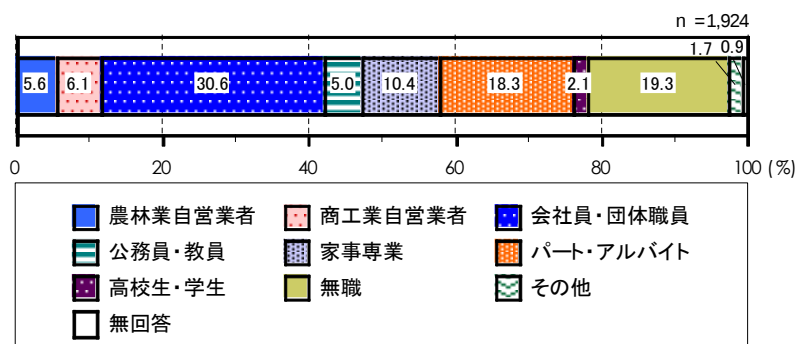


図 1-5-1 回答者の職業

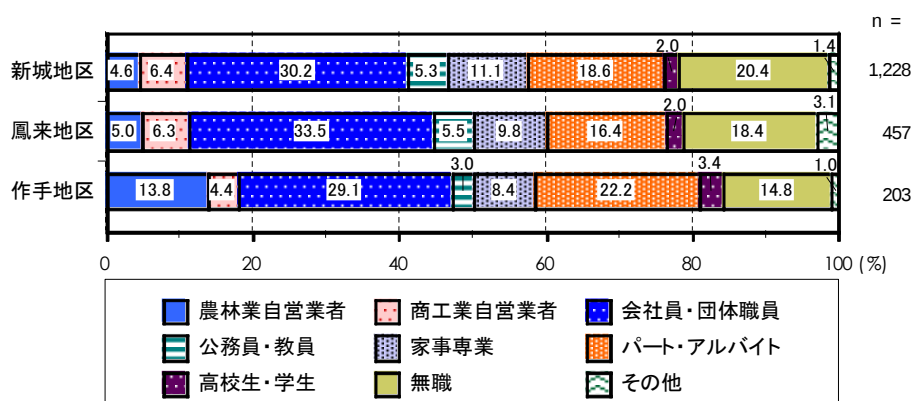


図 1-5-2 回答者の職業（地区別 [無回答を除く集計]）

6. 住まいの地区、小学校区

問6 あなたがお住まいの小学校区をご記入ください。

◆回答者の居住する小学校区は「千郷小学校区」が多くなっています。

- 回答者の居住する小学校区は、「千郷小学校区」が 20.9%で最も高く、次いで「新城小学校区」が 12.5%、「東郷東小学校区」が 9.5%などとなっている。
- なお、地区別では「新城地区」が 64.1%、「鳳来地区」が 24.1%、「作手地区」が 10.6%となっている。

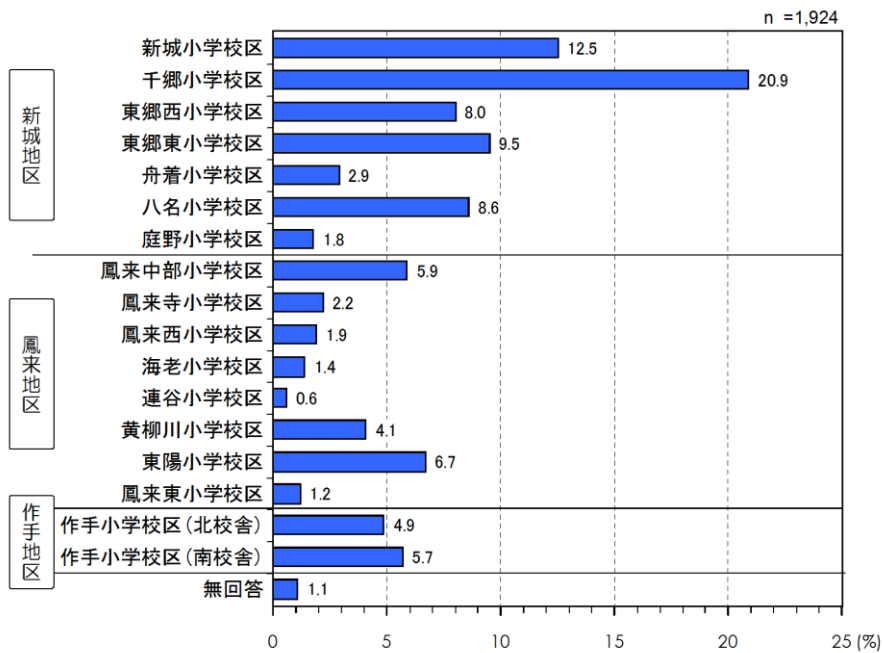


図 1-6-1 居住小学校区（上記グラフの数値を合計しても各地区の数値にならない）

7. 居住年数

問7 あなたは、新城市にお住まいになって何年になりますか。

旧市町村（新城市、鳳来町、作手村）を含めた通算年数でお答えください。

◆回答者は 30 年以上新城市に暮らしている人が多くなっています。

○「30 年以上」と回答した人が 60.1%を占めており、長年にわたって新城市で暮らしている人が多くなっている。次いで「20～29 年」が 16.6%、「10～19 年」が 12.5%となっている。

○地区別に見ると、鳳来地区で「30 年以上」と回答した人の割合が 66.2%と、最も高くなっている。

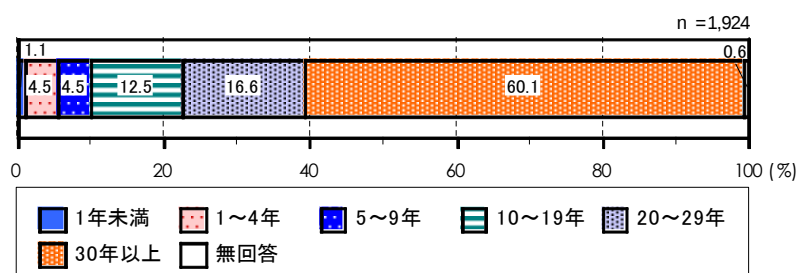


図 1-7-1 居住年数

表 1-7-1 居住年数（地区別）

	回答数			構成比		
	新城地区	鳳来地区	作手地区	新城地区	鳳来地区	作手地区
1年未満	14	4	4	1.1%	0.9%	2.0%
1～4年	54	15	15	4.4%	3.2%	7.4%
5～9年	54	16	13	4.4%	3.5%	6.4%
10～19年	157	44	38	12.8%	9.5%	18.8%
20～29年	212	77	28	17.2%	16.7%	13.9%
30年以上	738	306	104	60.0%	66.2%	51.5%
合計	1,229	462	202	100.0%	100.0%	100.0%

第2章 公共サービスに対する満足度

1. 満足度

問8 新城市内の公共サービスについて、あなたはどの程度満足していますか。

【6分野の評価について】

◆「教育・文化・生涯学習分野」、「総合的分野」では満足率が高く、「産業・経済・都市基盤分野」では満足率が低くなっています。

○公共サービスに対する満足度を把握するため、「福祉・健康分野」、「教育・文化・生涯学習分野」、「生活・環境分野」、「安全・安心対策分野」、「産業・経済・都市基盤分野」、「総合的分野」の6つの分野において、それぞれ複数の取組項目を設定し、回答者には、各項目について「満足」、「やや満足」、「やや不満」、「不満」の4段階で評価していただいた。

○なお、無回答だった者を除く回答者のうち、「満足」、「やや満足」と回答した者の割合を満足率と定義し、以下ではこの満足率を評価指標として各分野の公共サービスに対する住民の満足度として分析した。

○その結果、分野別の傾向として、「教育・文化・生涯学習分野」、「総合的分野」では満足率が高く、「産業・経済・都市基盤分野」では満足率が低くなっている。なお、「福祉・健康分野」では地域医療等の充実や社会保障制度の充実で満足率が低く、「生活・環境分野」では安全な水の供給で満足率が高く、「安全・安心対策分野」では大地震対策への取り組みで満足率が低くなるなど、項目によって満足率が高いもの、低いものがある。

【前回調査結果との比較】

◆「地域医療等の充実」は前年度調査に比べて満足率のポイントが最も上昇しています。

○前回調査に比べてもっともポイントが上昇したのは、12.2ポイント上昇した「地域医療等の充実」である。平成23年6月に長篠に公設助産所「しんしろ助産所」をオープンしたり、新城市民病院改革プランに基づいた広域連携による医療機能の向上や経営の改善を図ってきていることが評価につながっていると考えられる。

○「住民参加への取り組み」は7.2ポイント上昇した。各種の計画づくりや施設整備にあたって住民参加を実施してきたこと、地域自治区制度を導入して住民と行政の協働でのまちづくりが進んできていることなどが主な要因と考えられる。

○一方、「地域の防災組織の充実」の満足率が3.4ポイント低下している。東日本大震災の発生、集中豪雨による土砂災害などが起き、災害への危険性が高まるとともに、過疎化や少子高齢化で地域の防災体制が脆弱化してきていることを懸念していることが主な低下の要因と考えられる。

○また、「学校教育施設の整備」の満足率が2.7ポイント低下している。小学校の統廃合や学校教育施設の環境整備が進んでいないことなどが満足率を低下させた主な要因として

推測される。

表 2-1-1 公共サービスに対する満足率および前回調査からの変化

分類	項目	満足率(調査年度)			増減		
		今回	前回	前々回	H26	H22	H26
		H26	H22	H19	—H22	—H19	—H19
A 福祉・健康	1. 子育てを応援するためのサービス	65.7%	62.2%	64.5%	3.5	-2.3	1.2
	2. 高齢者の自立支援や福祉対策	59.9%	59.2%	62.5%	0.7	-3.3	-2.6
	3. 障がい者の自立支援や福祉対策	59.5%	57.1%	55.4%	2.4	1.7	4.1
	4. 健康づくり支援の充実	67.0%	63.9%	65.2%	3.1	-1.3	1.9
	5. 地域医療等の充実	35.0%	22.8%	15.3%	12.2	7.5	19.7
	6. 社会保障制度の充実	42.8%	42.7%	31.7%	0.2	11.0	11.1
B 教育・文化 ・生涯学習	1. 児童・生徒の教育環境対策	60.7%	57.9%	55.8%	2.7	2.2	4.9
	2. 学校教育施設の整備	59.8%	62.5%	61.7%	-2.7	0.8	-1.9
	3. 文化、芸能等の振興、保存	66.2%	64.8%	69.2%	1.3	-4.4	-3.0
	4. 文化施設の整備充実	61.3%	59.1%	60.7%	2.2	-1.6	0.7
	5. 歴史遺産、文化財の保護・活用	69.3%	68.2%	73.2%	1.2	-5.0	-3.9
	6. 生涯学習の推進	64.3%	63.8%	65.4%	0.6	-1.7	-1.1
	7. スポーツに親しむ環境づくり	62.1%	59.6%	62.6%	2.5	-3.0	-0.5
	8. 青少年の健全育成	56.5%	55.5%	57.5%	1.0	-2.1	-1.0
C 生活・環境	1. 暮らす場の整備	53.2%	51.5%	53.1%	1.8	-1.6	0.1
	2. 快適な生活道路の整備	44.3%	45.0%	45.5%	-0.7	-0.5	-1.2
	3. 憩い空間の充実	42.1%	42.3%	42.0%	-0.3	0.3	0.0
	4. 通学や生活の足としての公共交通機関等の充実	36.2%	37.1%	32.1%	-0.9	4.9	4.0
	5. 安全な水の供給	82.1%	75.5%	72.2%	6.6	3.3	9.9
	6. 衛生的な下水・雨水の処理	67.8%	61.9%	55.3%	5.9	6.6	12.5
	7. ごみ、し尿処理への取り組み	67.7%	66.4%	58.5%	1.3	7.8	9.2
	8. 環境対策への取り組み	61.0%	62.7%	57.6%	-1.7	5.2	3.5
D 安全 ・安心対策	1. 交通安全対策の推進	56.7%	50.2%	49.1%	6.5	1.0	7.6
	2. 防犯対策への取り組み	60.2%	57.5%	58.2%	2.8	-0.7	2.1
	3. 大地震対策への取り組み	49.9%	50.1%	47.3%	-0.2	2.8	2.6
	4. 地域の防災組織の充実	62.3%	65.7%	62.7%	-3.4	3.0	-0.4
	5. 消防・救急体制の充実	61.1%	60.9%	57.4%	0.2	3.5	3.7
E 産業・経済 ・都市基盤	1. 第1次産業(農林水産業)の振興	52.5%	50.2%	53.7%	2.3	-3.5	-1.2
	2. 第2次産業(鉱業、建設業、製造業)の振興	43.2%	41.6%	46.7%	1.6	-5.1	-3.5
	3. 第3次産業(サービス業)の振興	33.4%	33.3%	35.4%	0.1	-2.2	-2.0
	4. にぎわいの創出と交流人口対策	44.0%	43.6%	44.1%	0.3	-0.5	-0.1
	5. 便利な市街地・中心街の整備	30.4%	29.7%	29.7%	0.7	-0.0	0.6
	6. 円滑な道路網の整備	60.4%	54.4%	47.3%	6.0	7.1	13.1
	7. 市の宣伝・情報提供の充実	39.1%	39.7%	39.6%	-0.6	0.1	-0.4
F 総合	1. 市の広報・広聴の充実	66.7%	67.1%	62.8%	-0.5	4.3	3.8
	2. 窓口サービスの応対	72.3%	70.1%	66.3%	2.2	3.8	6.0
	3. 地域情報化への取り組み	67.8%	66.2%	54.8%	1.6	11.4	13.0
	4. 住民自治の活性化	59.8%	57.8%	53.7%	1.9	4.1	6.1
	5. 住民参加への取り組み	65.0%	57.8%	54.4%	7.2	3.4	10.6
	6. 国際交流への取り組み	63.6%	60.8%	59.6%	2.8	1.2	4.1
	7. 広域連携への取り組み	56.0%	53.6%	50.5%	2.3	3.1	5.4
	8. 市の一体感を感じる取り組み	54.2%	53.8%	-	0.4	-	-

【分野別】

A. 福祉・健康分野

◆「地域医療等の充実」と「社会保障制度の充実」の満足率が低くなっています。

○「地域医療等の充実」に対する満足率が 35.0%となっており、前回調査に比べて 12.2 ポイント上昇しているものの、福祉・健康分野の中では満足率が低くなっている。高齢化が進む中で医療に対するニーズが高まってきており、医師不足や医療サービスの拡充などが市民の期待値まで充足されていないことが原因と思われる。

○また、「社会保障制度の充実」に対する満足率も 42.8%と評価が低くなっている。消費税率の引き上げや、介護保険制度や年金制度などの老後に安心して暮らすことできる制度の不安から、評価が低くなっているものと思われる。

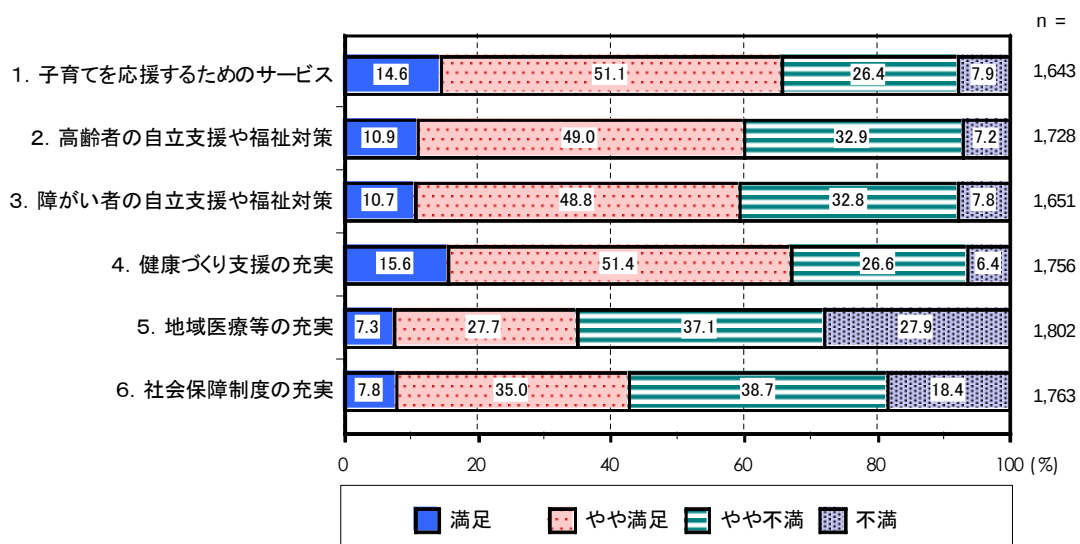


図 2-1-1 満足度（福祉・健康分野 [無回答を除く集計]）

B. 教育・文化・生涯学習分野

◆全ての項目で満足率が高く、特に「歴史遺産、文化財の保護・活用」が高くなっています。

○全ての項目で満足率が50%を超えており、特に「歴史遺産、文化財の保護・活用」については満足度が69.3%と高くなっている。長篠・設楽原の戦いなど、戦国の遺産を振り返る祭りの開催やそれに関わる伝統行事なども継承されていることが高い評価になったものと思われる。またフェイスブック等による情報発信や、長篠・設楽原の戦い等の書籍、情報誌等を書店等で目にする機会が多くなったことにより、より多くの市民が身近に市の歴史を感じやすくなったことも一因と考えられる。

○また、「文化、芸能等の振興、保存」に対する満足率が66.2%と高くなっている。これは国指定重要無形民俗文化財となっている「三河の田楽（鳳来寺田楽・黒沢田楽）」、「乗本万灯」、「信玄原の火おんどり」、「大海の放下」、「はねこみ」、「新城薪能」、「新城歌舞伎」など、各地域で民俗芸能が受け継がれていることが評価されたと考えられる。

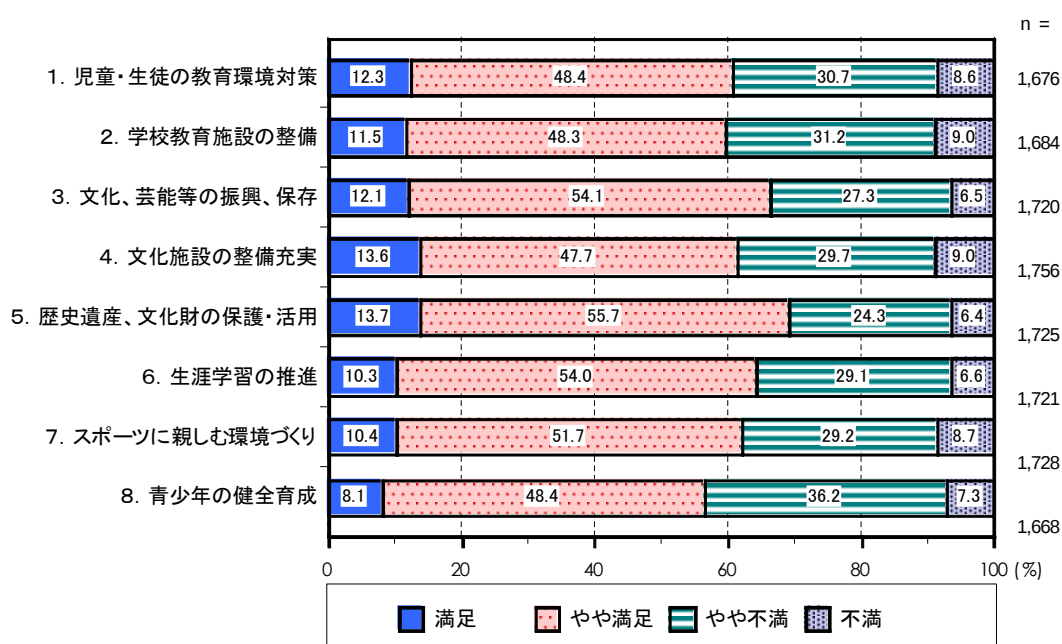


図 2-1-2 満足度（教育・文化・生涯学習分野 [無回答を除く集計]）

C. 生活・環境分野

◆「安全な水の供給」をはじめ、環境面での満足率が高くなっていますが、一方で「通学や生活の足としての公共交通機関等の充実」、「憩いの空間の充実」、「快適な生活道路の整備」などの生活環境への満足率は低くなっています。

○生活・環境分野については、項目によって評価に大きな差が出ている。

○「安全な水の供給」については満足率が82.1%と全項目で最も高くなっている。また、「衛生的な下水・雨水の処理」が67.8%、「ごみ・し尿処理への取り組み」が67.7%、「環境対策への取り組み」が61.0%と環境面での満足率は高くなっている。

○一方、「通学や生活の足としての公共交通機関等の充実」については、満足率が36.2%と非常に低くなっている。特に鳳来地区の満足率が低くなっているが、今後も引き続き地区ごとに異なるニーズを的確に把握し、路線変更や運行時刻の検討などを柔軟に行う必要がある。年齢別データから推察すると、高齢者は若年層よりも満足率が高い傾向があるものの若者や子を持つ親の世代が低くなっている。運行本数が少ないことなどを理由に公共交通に対して不満を持っている人が多くなっていると考えられる。

○また、「憩いの空間の充実」が42.1%、「快適な生活道路の整備」が44.3%と低く、なおかつこれらの項目は前回調査よりもポイントが低下しており、生活環境としてのインフラ整備に対して不満を感じている人が多くなっている。その一因としては、生活に直結した道路の幅員が狭く、車両のすれ違いや緊急車両等の通行が困難などの問題に対し、用地や予算の確保が難しく、道を広げてほしいとの要望に答えられていないことが考えられる。

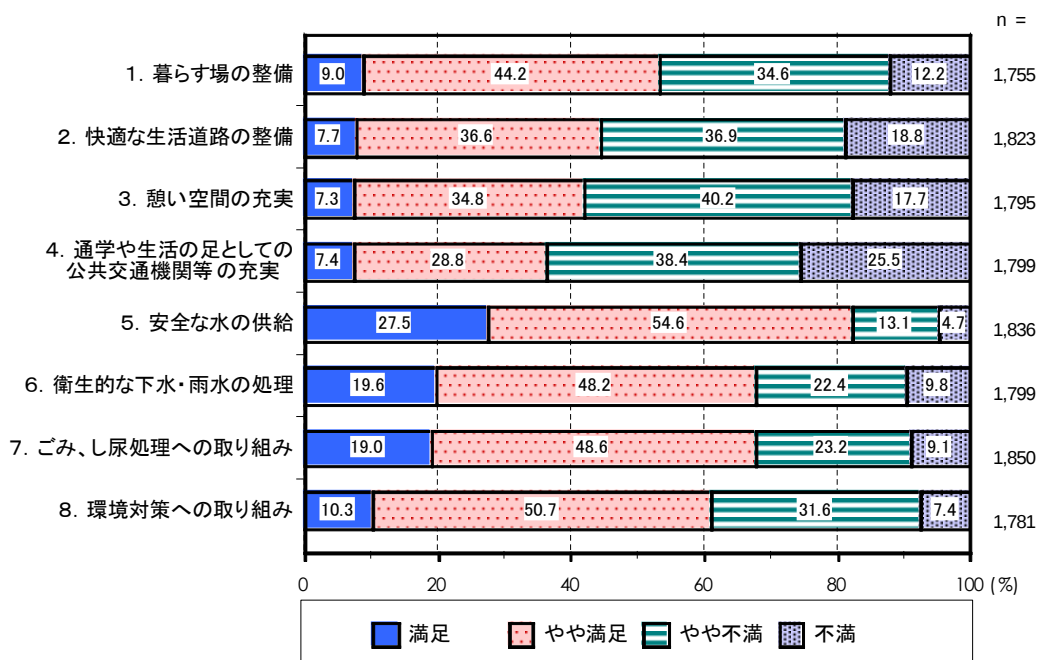


図 2-1-3 満足度（生活・環境分野 [無回答を除く集計]）

D. 安全・安心対策分野

◆「大地震対策への取り組み」への満足率は低くなっています。

○安全・安心対策分野については、「大地震対策への取り組み」を除き、満足率が 50%以上となっている。東日本大震災の発生や南海トラフ巨大地震が近い将来に発生することが予想される中、「大地震対策への取り組み」に対する満足率は 49.9%と低く、なおかつ前回調査よりも 0.2 ポイント低下しており、大地震対策への取組みが求められる。

○また、「交通安全対策の推進」についての満足率は 56.7%であるが、前回調査に比べて 6.5 ポイント上昇している。市内には国道 151 号、国道 257 号、国道 301 号、国道 420 号をはじめ、県道などの幹線道路が通り、交通量が多いことからの交通安全対策が求められているが、歩道等の道路整備や地域住民の協力で交通安全パトロールが実施されていること、通学路のカラー舗装などの歩行者安全対策の実施などが、前回調査よりもポイントを上昇させた要因と考えられる。

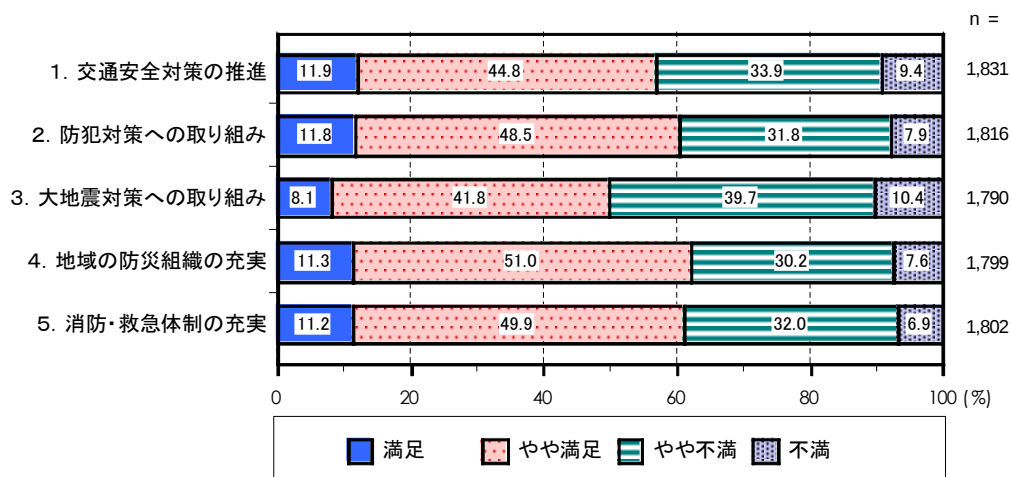


図 2-1-4 満足度（安全・安心対策分野 [無回答を除く集計]）

E. 産業・経済・都市基盤分野

◆「便利な市街地・中心街の整備」、「第3次産業（サービス業）の振興」など、商業、サービス業への満足率は低くなっています。

○産業・経済・都市基盤分野については、「便利な市街地・中心街の整備」についての満足率が30.4%で最も低くなっている。要因の一つとして、国道151への商業施設の立地などにより、中心市街地の商業機能が衰退していることが考えられる。

○また、「第3次産業（サービス業）の振興」についても満足率が33.4%と低くなっている。

○さらに、「市の宣伝・情報提供の充実」についても満足率が39.1%と低くなっている。商工会などとの連携による中心市街地の活性化、小規模事業者に対する支援策の充実や企業誘致、観光情報などの情報提供による交流人口の増加策が必要と思われる。

○一方、「円滑な道路網の整備」については、満足率が60.4%と他の項目に比べて高く、なおかつ前回調査に比べて6ポイント上昇している。これは国道151の整備、三遠南信州自動車道の開通と鳳来峡インターの開設、さらには新東名高速道路が整備中であるなど、広域的な道路網が充実してきていることが推測される。

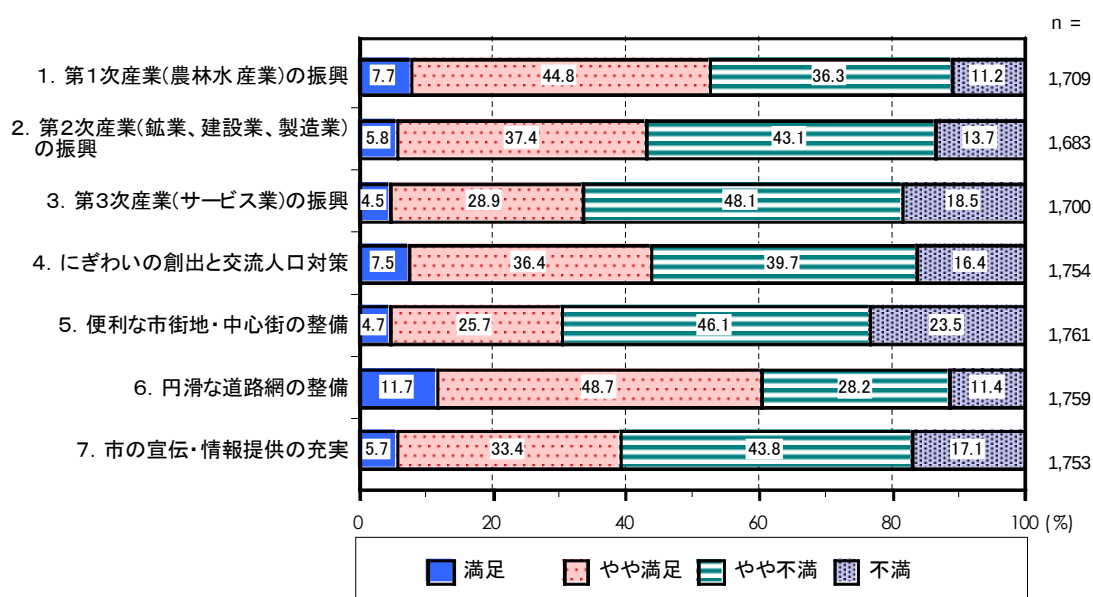


図 2-1-5 満足度（産業・経済都市基盤分野 [無回答を除く集計]）

F. 総合的分野

◆「窓口サービスの対応」への満足率は高くなっています。

○総合的分野では、全ての項目で満足率が50%を上回っている。特に、「窓口サービスの対応」については、満足率が72.3%で、前回調査と比べても2.2ポイント上昇する高い評価を得ている。

○また、「住民参加への取り組み」については65.0%となっており、なおかつ前回調査に比べて7.2ポイント上昇しており、住民参加の取り組みの満足度が高まってきている。

「住民自治の活性化」が59.8%、「広域連携への取組み」が56.0%、「市の一体感を感じる取組み」が54.2%と、評価は分かれているが前回調査と比べても満足率が徐々に高くなっている。

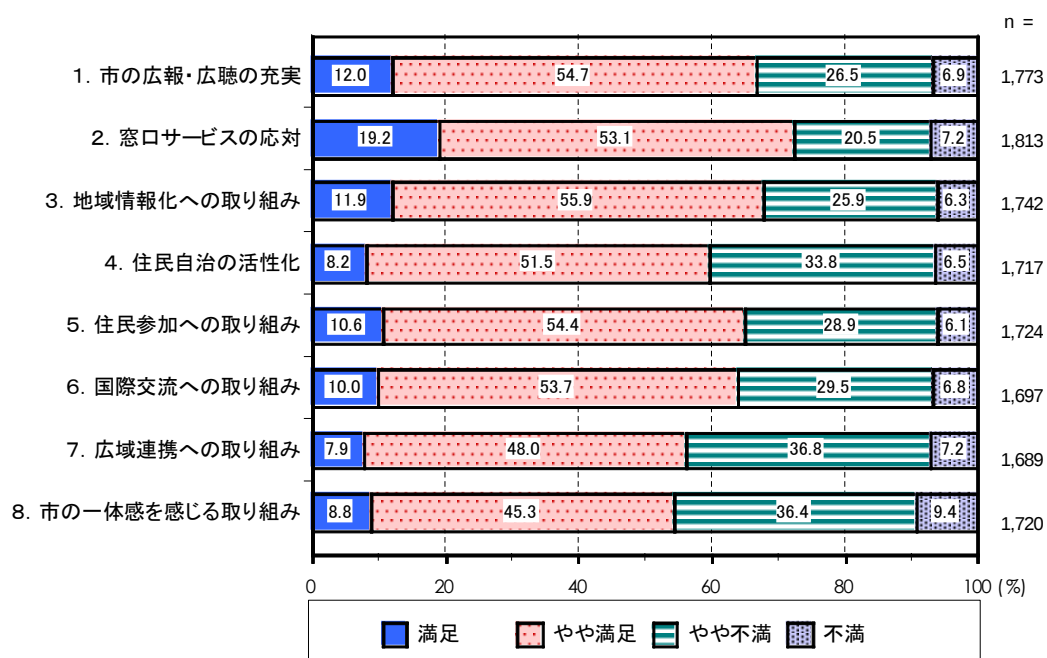


図 2-1-6 満足度（総合的分野 [無回答を除く集計]）

【地区別】

○新城地区では、市平均の傾向と大差はなく、福祉・健康分野の「地域医療等の充実」や「社会保障制度の充実」で平均をわずかに下回っている。

○鳳来地区では、福祉・健康分野の「子育てを応援するためのサービス」、教育・文化分野の「児童・生徒の教育環境対策」や「文化施設の整備充実」、生活・環境分野の「憩い空間の充実」、「通学や生活の足としての公共交通機関等の充実」、「衛生的な下水・雨水の処理」、産業・経済・都市基盤分野の「第1次産業の振興」、「第2次産業の振興」、「第3次産業の振興」などで、市平均を下回っている。

○作手地区では、教育・文化分野の「児童・生徒の教育環境対策」や「学校教育施設の整備」、「文化施設の整備充実」、総合分野の「市の一体感を感じる取組み」などで、市平均を下回っている。

※図内の棒グラフおよび数値は地区の満足率を、折れ線グラフは市全体の満足率を表している。

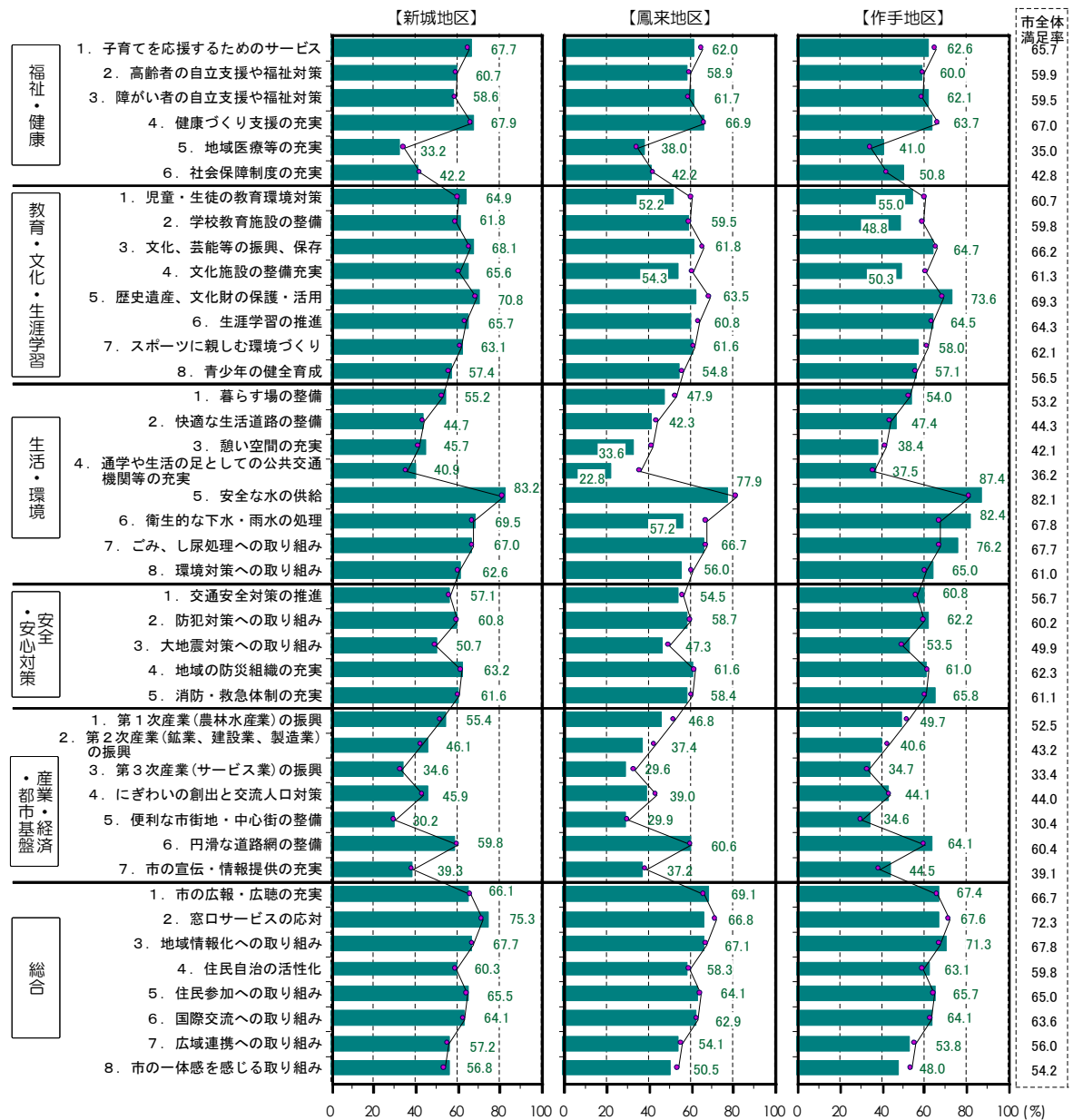


図 2-1-7 公共サービスに対する満足率（地区別 [無回答を除く集計]）

【年齢別】

○18～29 歳では、「児童・生徒の教育環境対策」、「通学や生活の足としての公共交通機関等の充実」、「大地震対策への取組み」などで、市平均を下回っている。

○30～39 歳では、「子育てを応援するためのサービス」、「地域医療等の充実」、「通学や生活の足としての公共交通機関等の充実」などで、市平均を下回っている。

○40～49 歳では、「高齢者の自立支援や福祉対策」や「障がい者の自立支援や福祉対策」、「地域医療等の充実」、「児童・生徒の教育環境対策」、「学校教育施設の整備」、「通学や生活の足としての公共交通機関等の充実」、「便利な市街地・中心街の整備」、「市の宣伝・情報提供の充実」などで、市平均を下回っている。

※図内の棒グラフおよび数値は年齢別の満足率を、折れ線グラフは市全体の満足率を表している。

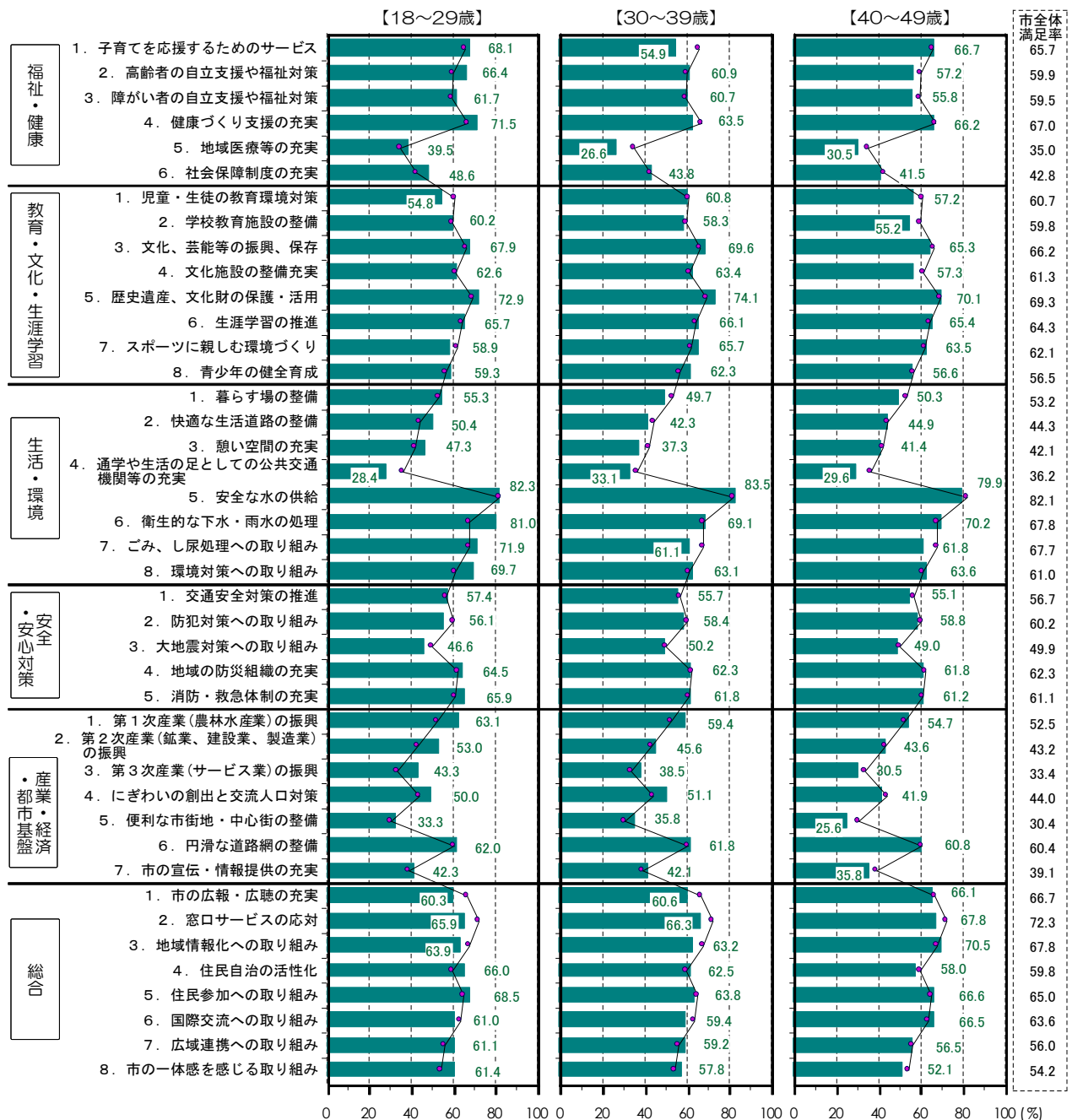


図 2-1-8 公共サービスに対する満足率（年齢別① [無回答を除く集計]）

○50～59 歳では、全体的に満足度は低く、多くの項目で市平均を下回っている。

○60～69 歳では、「高齢者の自立支援や福祉対策」や「衛生的な下水・雨水の処理」などで、市平均を下回っている。

○70 歳以上では、市平均を上回る項目が多く、特に福祉・健康分野・生活・環境分野、総合分野で高くなっている。一方で「第1次産業の振興」では市平均を大きく下回っている。

※図内の棒グラフおよび数値は年齢別の満足率を、折れ線グラフは市全体の満足率を表している。

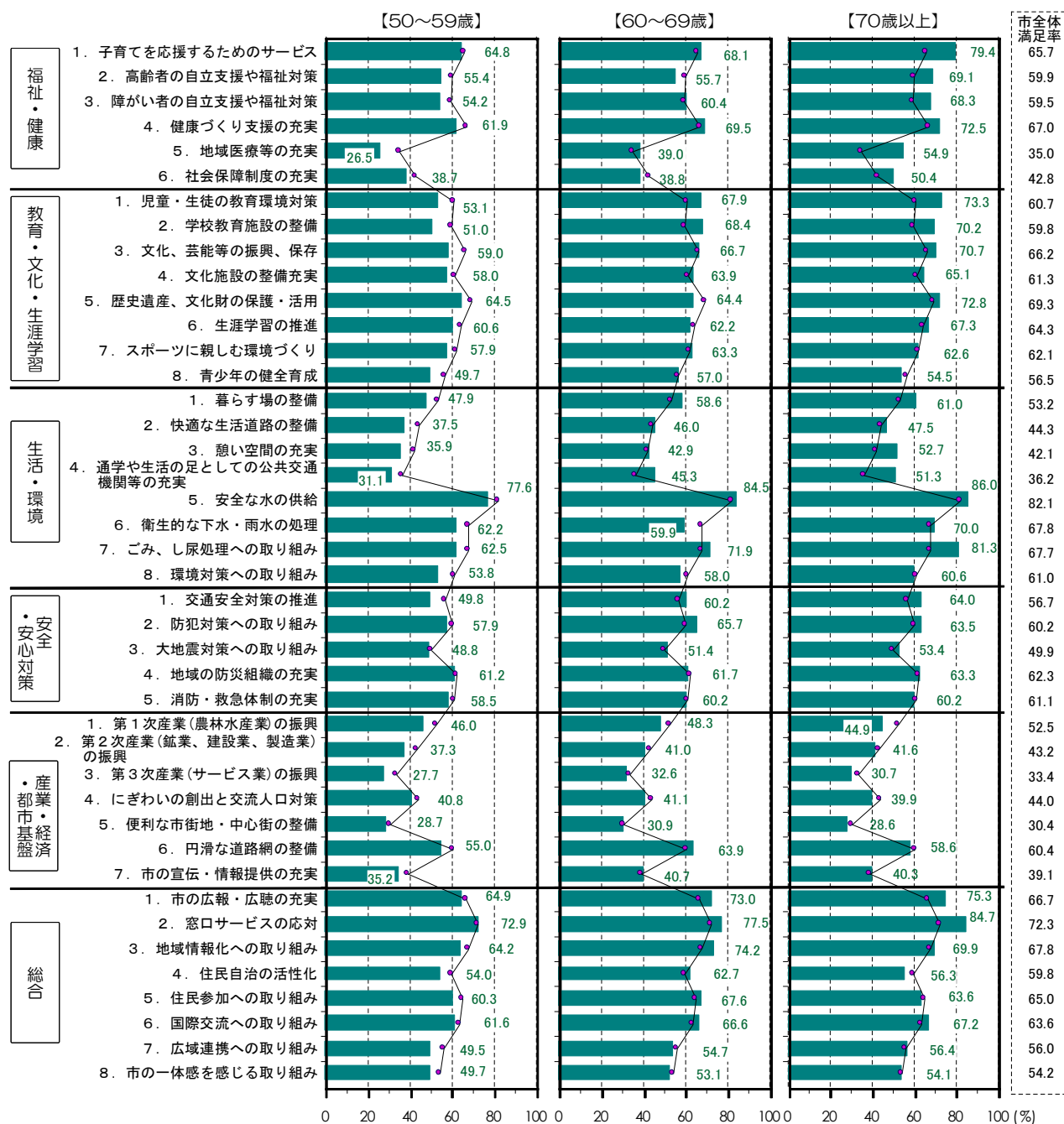


図 2-1-9 公共サービスに対する満足率（年齢別② [無回答を除く集計]）

【性別別】

○男性では「窓口サービスの対応」を除く全ての項目で、市平均を下回っている。

○女性では逆に「窓口サービスの対応」を除き、全ての項目で市平均を上回っている。

※図内の棒グラフおよび数値は性別別の満足率を、折れ線グラフは市全体の満足率を表している。

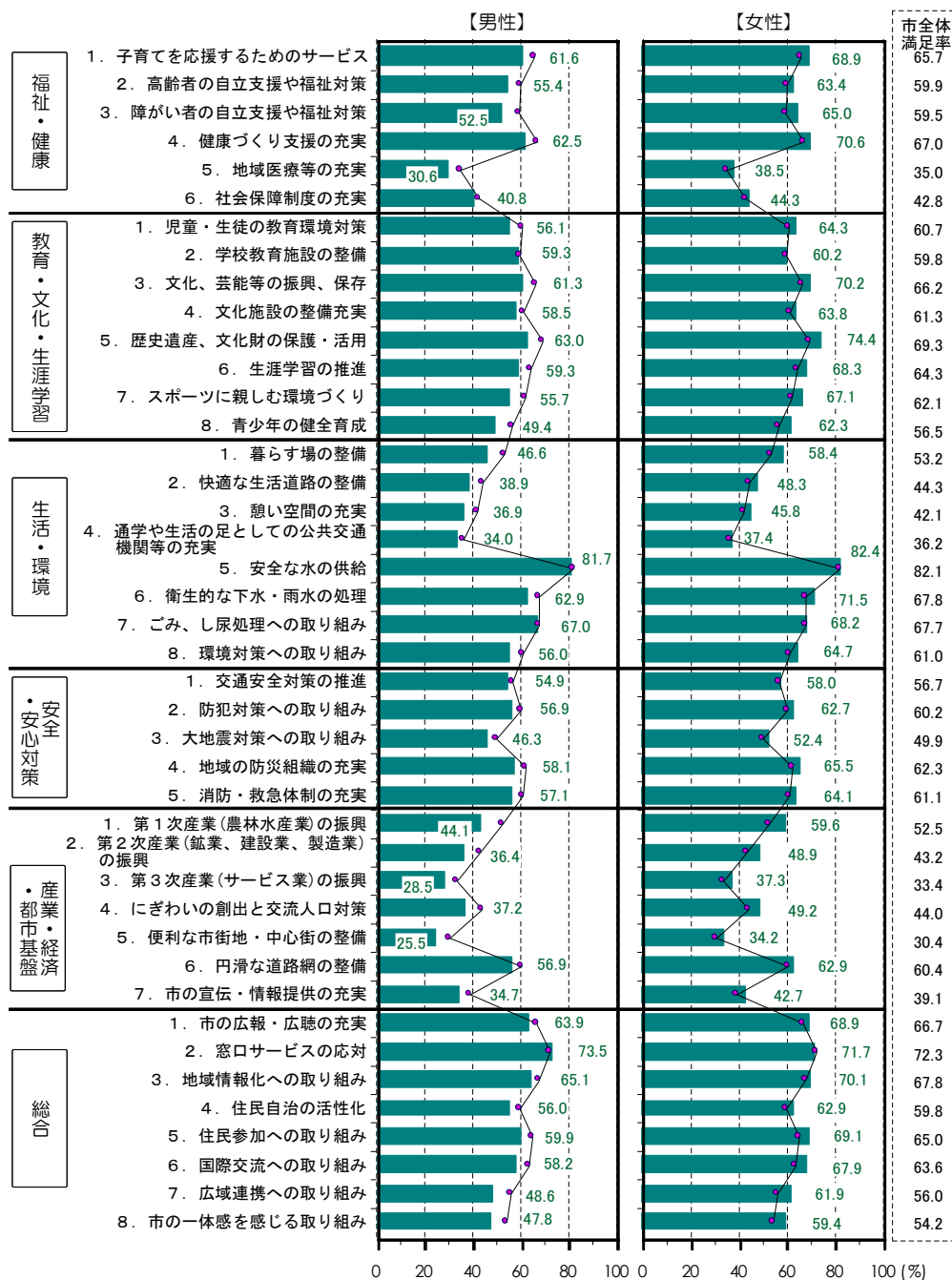


図 2-1-10 公共サービスに対する満足率（性別 [無回答を除く集計]）

第3章 市のこれからのまちづくりについて

1. 定住意向

問9 あなたは、今後も新城市内に住みたいですか。

あてはまるお考え・理由に1つだけ○印を付けてください。

◆家族と一緒に住みたいからという理由などで、「住みたい」との回答が多く、定住意向が強くなっています。

○新城市での今後の定住意向に対して、「住みたい」との回答が76.4%、「市外へ転居したい」が13.3%、「その他」が10.3%となっており、定住意向が強くなっている。

○しかし、前回調査と比較して、「住みたい」との回答は78.5%から76.4%へと2.1ポイント減少し、「市外へ転居したい」が12.2%から13.3%へと1.1ポイント上昇している。

○「住みたい」と回答した者の理由については、「家族と一緒に住みたいから」が27.6%で最も高く、次いで「豊かな自然に恵まれているから」が19.2%、「友人や知人、親戚などがいて安心して住めるから」が14.3%となっている。

○「市外へ転居したい」と回答した者の理由については、「この地域に魅力的な働く場がないから」が4.8%で最も高くなっている。なお、前回調査と比較して「この地域に魅力的な働く場がないから」との回答は4.5%から4.8%へとあまり変化がなく、雇用の場の少なさが移転希望へとつながっていると思われる。

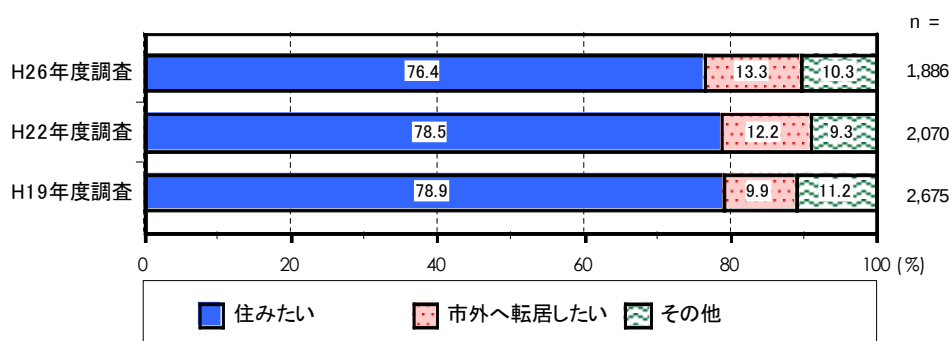


図 3-1-1 定住意向 [無回答を除く集計]

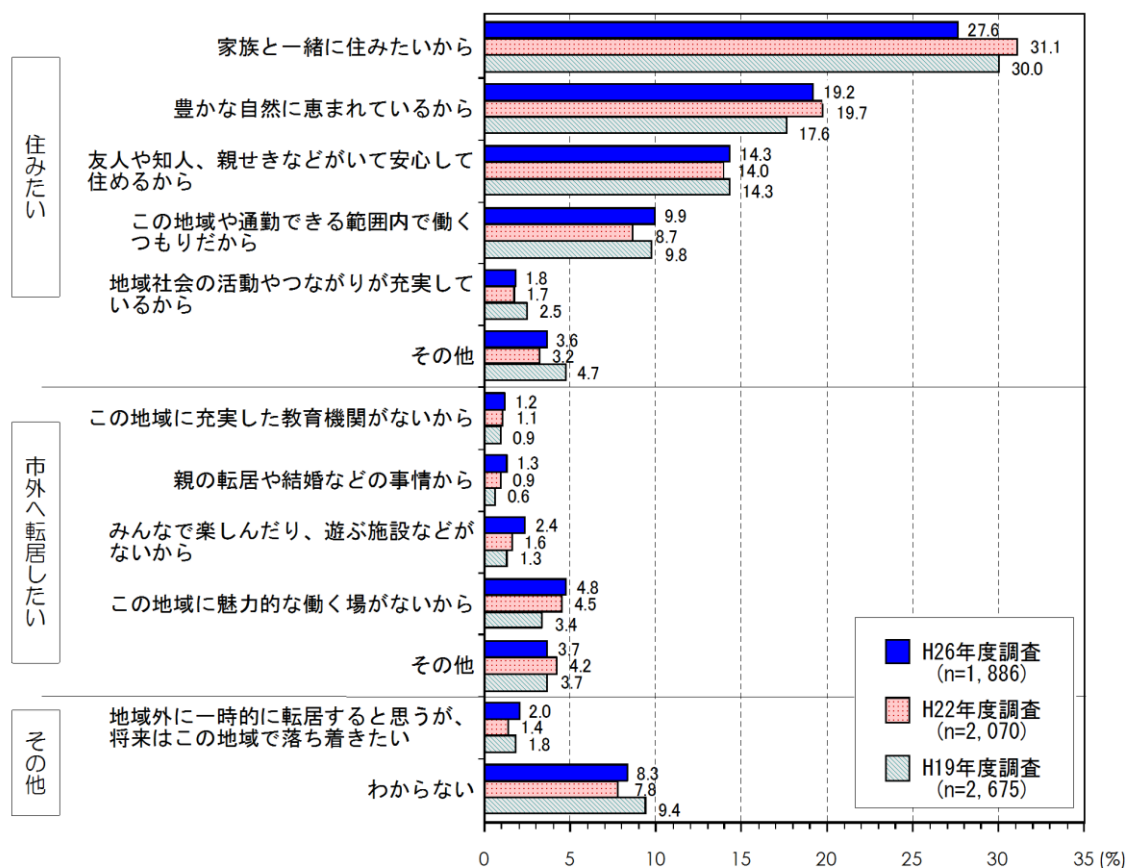


図 3-1-2 定住意向詳細〔無回答を除く集計〕

【地区別】

- 新城地区では、市平均と比べて「住みたい」の割合が高く、その理由は「家族と一緒に住みたいから」の割合が高くなっている。
- 鳳来地区では、「住みたい」の割合が他地区に比べて低く、「市外へ転居したい」の割合が高くなっている。
- 作手地区では、市平均と比べて「住みたい」の割合が高く、その理由は「豊かな自然に恵まれているから」の割合が高くなっている。その一方で「市外へ転居したい」の割合も高く、その理由が「この地域に魅力的な働く場がないから」、「みんなで楽しんだり、遊ぶ施設がないから」の割合が他地区に比べて高くなっている。

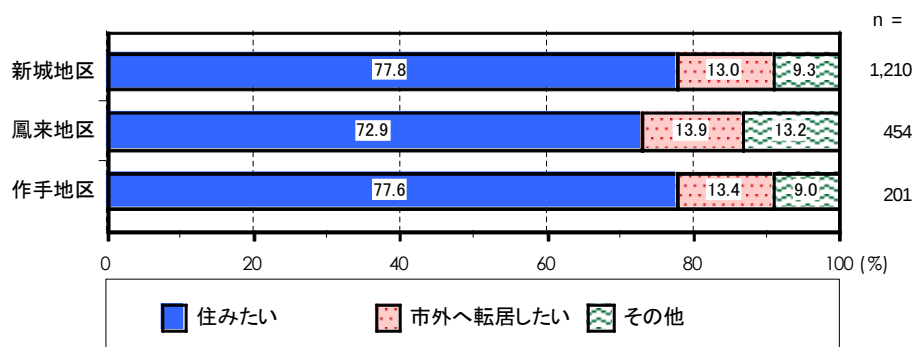


図 3-1-3 定住意向（地区別〔無回答を除く集計〕）

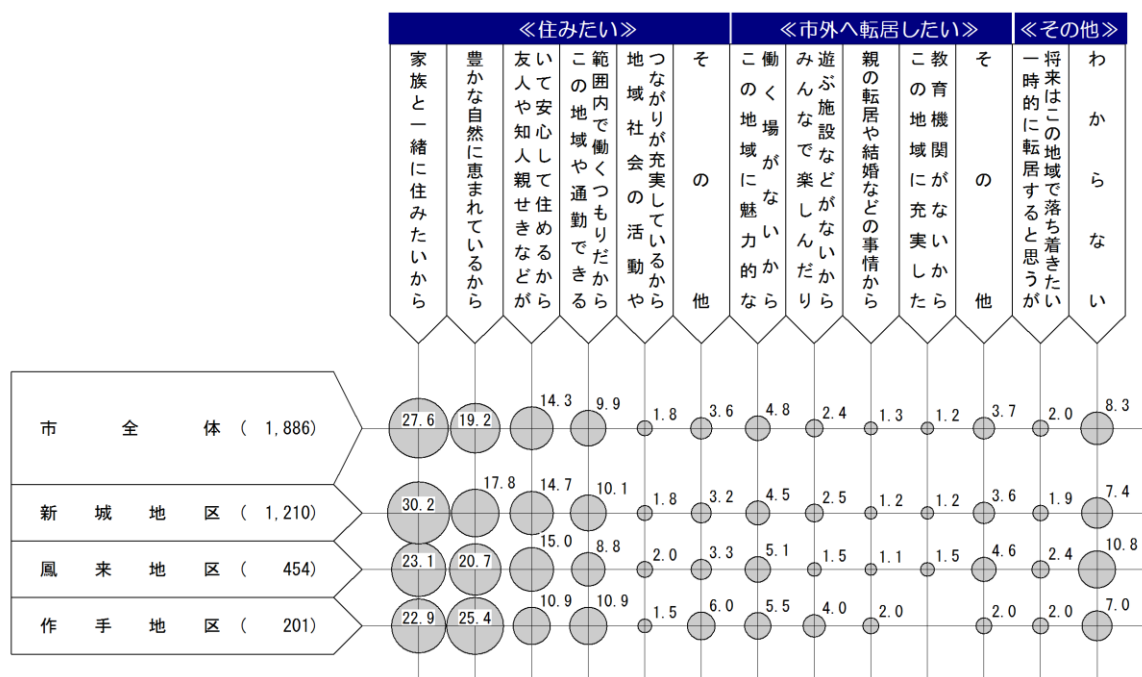


図 3-1-4 定住意向詳細（地区別 [無回答を除く集計]）

【年齢別】

○年齢が若くなるにつれて、「住みたい」と回答する割合が低くなっている。特に18～29歳では、「住みたい」との回答が55.4%、「市外へ転居したい」が27.0%となっており、特に「この地域に魅力的な働く場がないから」との回答が11.2%と高くなっている。

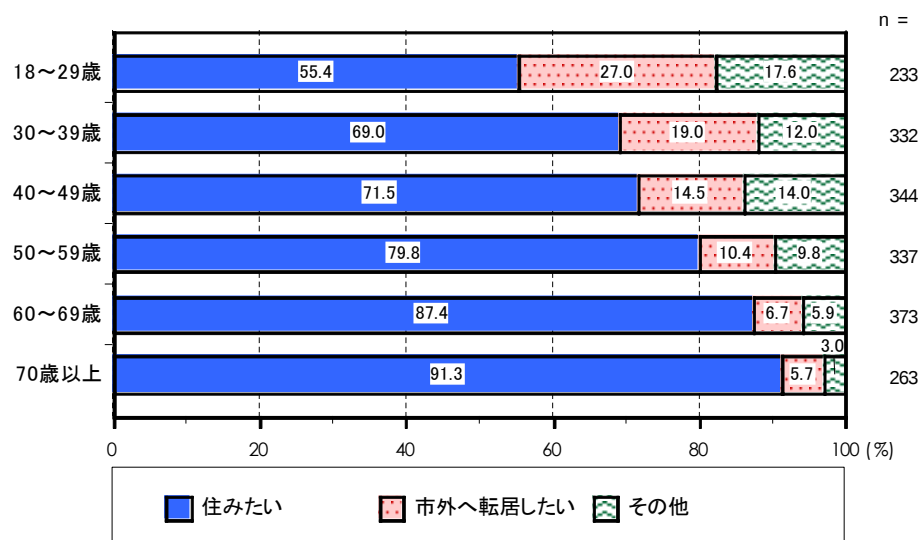


図 3-1-5 定住意向（年齢別 [無回答を除く集計]）

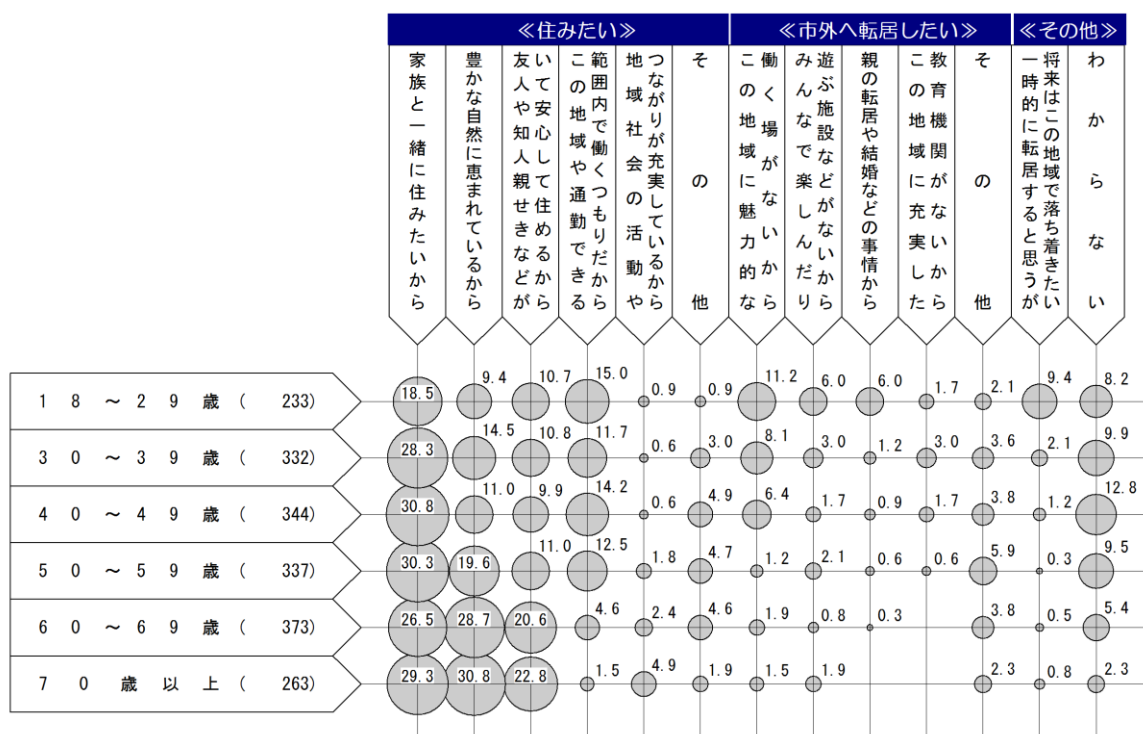


図 3-1-6 定住意向詳細（年齢別〔無回答を除く集計〕）

2. 定住対策

問 10 新都市の定住を促進するため、どのような対策を充実させる必要があると思いますか。3つまで○印を付けてください。

◆定住促進施策としては、医療サービス、にぎわいのある施設の誘致、女性が働きやすい環境や子育て支援、雇用の場などが求められています。

○定住促進のために必要な施策として、「病院や診療施設などの充実」が 68.2%で最も高くなっている。次いで「買い物・遊びなどのにぎわいのある施設の誘致」が 37.4%、「女性が働きやすい環境づくりや子育て支援制度の充実」が 33.9%、「地場産業や新たな地域内産業の開発による働く場の整備」が 30.8%、「企業誘致などによる働く場の整備」が 29.9%と高くなっている。

○前回調査と比較して、「病院や診療施設などの充実」は 78.6%から 68.2%へと 10.4 ポイント減少しており、医療サービスの充実が図られてきていることが要因として考えられる。また、「女性が働きやすい環境づくりや子育て支援制度の充実」が 25.7%から 33.9%へと 8.2 ポイント増加しており、女性が子どもを産み育て、働くことができる支援策が求められていると思われる。

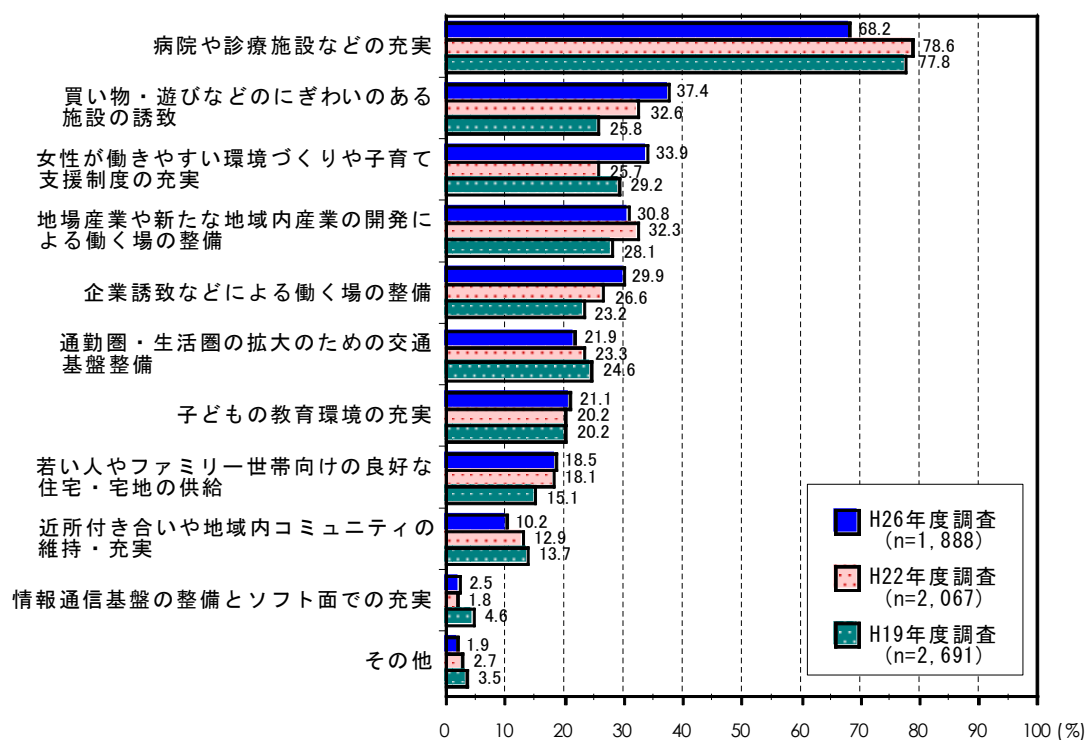


図 3-2-1 定住促進対策〔無回答を除く集計〕

【地区別】

- 新城地区では、「病院や診療施設などの充実」との回答が最も高くなっている。
- 鳳来地区では、他地区に比べ「通勤圏・生活圏の拡大のための交通基盤整備」や「若い人やファミリー世帯向けの良好な住宅・宅地の供給」、「買い物・遊びなどのにぎわいのある施設の誘致」の割合が高くなっている。
- 作手地区では、他地区に比べ「地場産業や新たな地域内産業の開発による働く場の整備」や「子どもの教育環境の充実」の割合が高くなっている。

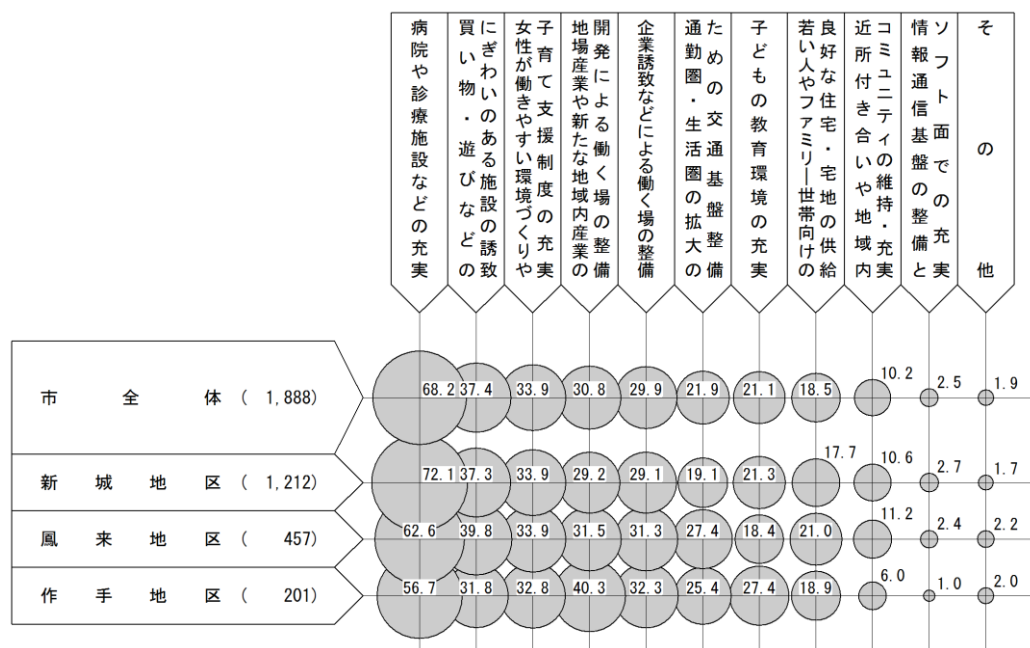


図 3-2-2 定住促進対策（地区別〔無回答を除く集計〕）

【年齢別】

- どの年齢でも「病院や診療施設などの充実」の回答が最も高くなっている。
- 若い年齢ほど「買い物・遊びなどのにぎわいのある施設の誘致」の割合が高くなっている。
- 30～39歳では、他の年齢層と比べ「女性が働きやすい環境づくりや子育て支援制度の充実」の割合が高くなっている。
- 「地場産業や新たな地域内産業の開発による働く場の整備」は、年齢が高くなるにつれて割合が高くなっている。
- 70歳以上では、他の年齢層に比べて「近所付き合いや地域内コミュニティの維持・充実」の割合が高くなっている。

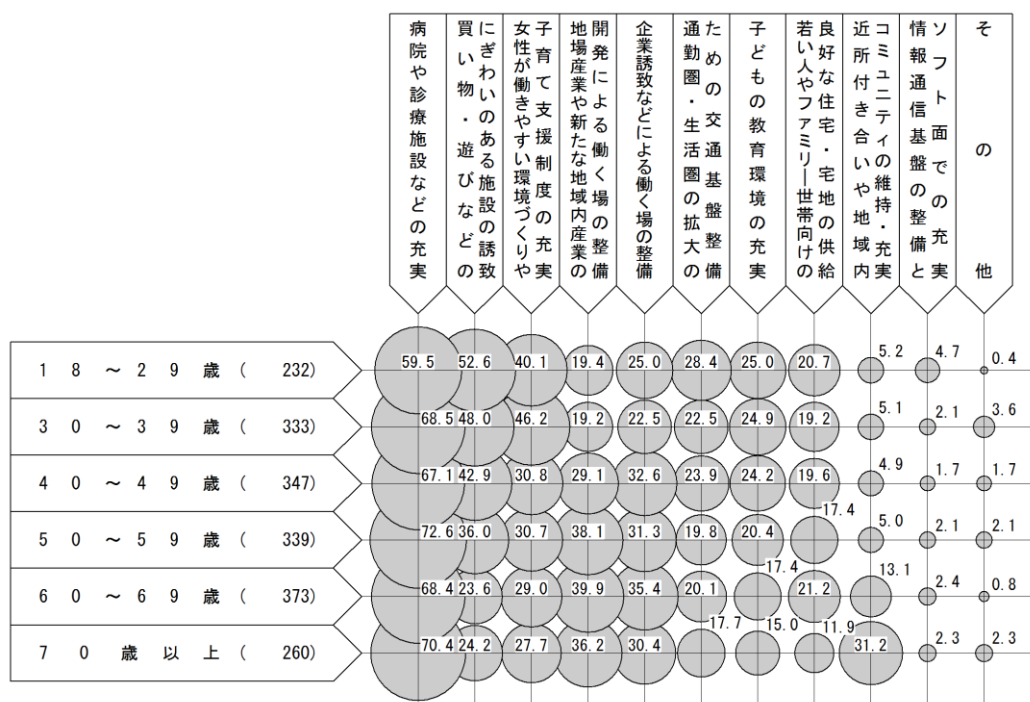


図 3-2-3 定住促進対策（年齢別 [無回答を除く集計]）

3. 地域の自治活動への参加意向

問 11 あなたは地域の住民自治活動の中で、参加・協力していきたいものがありますか。（現在行っていてさらに継続して参加・協力したいものも含む）あてはまるものすべてに○印を付けてください。

◆地域の清掃・美化、環境保護の活動、地域で行うスポーツや趣味のサークル活動、地域自治区・行政区・集落・コミュニティ活動への参加希望が高くなっています。

- 参加・協力していきたい自治活動としては、「地域の清掃・美化、環境保護の活動」が 41.8% で最も高く、次いで「地域で行うスポーツや趣味のサークル活動」が 38.5%、「地域自治区・行政区・集落・コミュニティ活動」が 35.2%となっている。
- 前回調査と比較しても上位 3 つの活動への参加希望が高い状況に変化がない。なお、「地域の歴史・文化などの保護伝承活動」は 1.0 ポイント上昇した以外は全てでポイントが低

下しており、住民自治活動への参加希望が低くなっている。

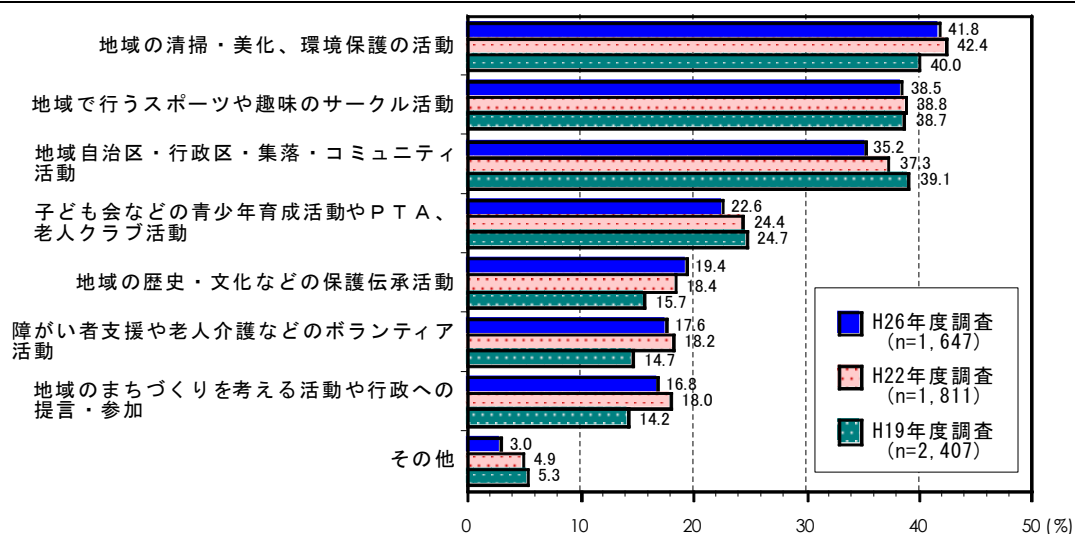


図 3-3-1 参加・協力意向のある地域自治活動〔無回答を除く集計〕

【地区別】

- 新城地区では、他地区に比べて「地域で行うスポーツや趣味のサークル活動」が高くなっているが、一方で「地域の清掃・美化環境保護の活動」、「地域自治区・行政区・集落・コミュニティ活動」の割合が他地区に比べて低くなっている。
- 鳳来地区では、他地区に比べて「地域の歴史・文化などの保護伝承活動」の割合が高くなっている。
- 作手地区では、他地区に比べ「地域自治区・行政区・集落・コミュニティ活動」、「地域の清掃・美化環境保護の活動」の割合が高く、地域での活動への参加・協力意向が高くなっている。

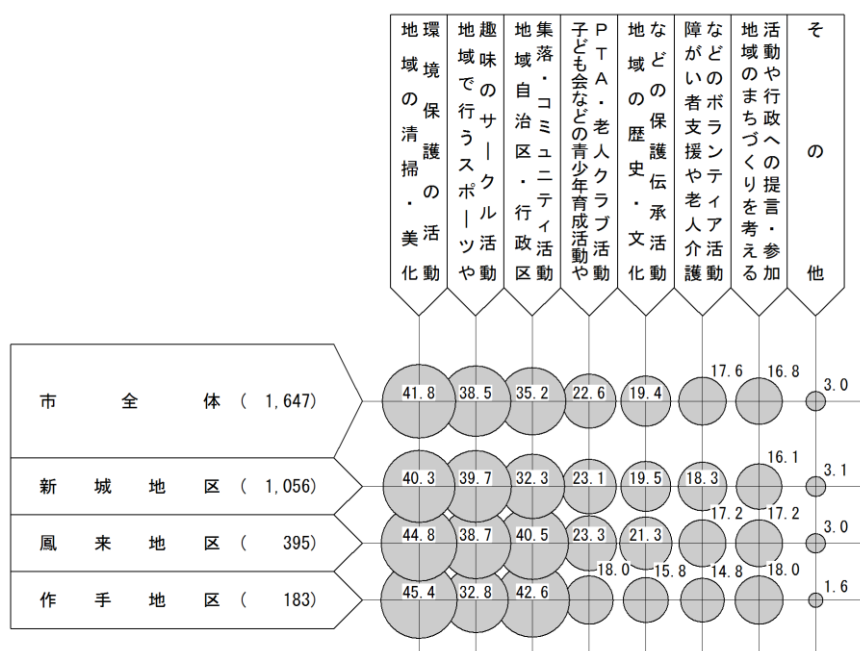


図 3-3-2 参加・協力意向のある地域自治活動（地域別〔無回答を除く集計〕）

【年齢別】

- 若い世代では「地域で行うスポーツや趣味のサークル活動」への参加・協力意向の割合が高くなっている。
- 30～39歳では「子ども会などの青少年育成活動やPTA・老人クラブ活動」への参加・協力意向の割合が高くなっている。
- 60～69歳では「地域の清掃・美化、環境保護の活動」、「地域自治区・行政区・集落・コミュニティ活動」、「地域のまちづくりを考える活動や行政への提言・参加」など、地域の自治等に関する活動への参加・協力意向が高くなっている。

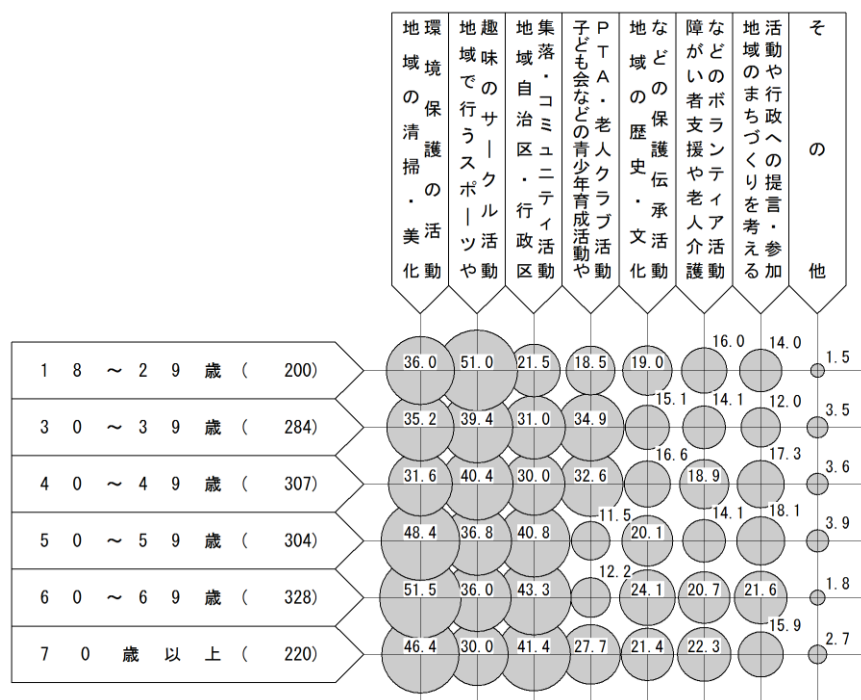


図 3-3-3 参加・協力意向のある地域自治活動（年齢別 [無回答を除く集計]）

4-1. 自治活動への参加状況

問 12 市民自治社会の実現には、地域や市民自身が地域の課題や市民ニーズに的確に対応し、主体的にその解決を進める「地域力」が必要となります。

あなたは、地域力を高める住民自治活動へ参加していますか。1つだけ○印をつけてください。

◆自治活動に参加している人は 34.3%、参加したいが参加していない人は 38.5%、興味がないので、参加していない人が 25.3%

○地域力を高める自治活動への参加については、「積極的に参加している」が 4.1%、「できるだけ参加している」が 30.2%で、あわせて参加している人は 34.3%となっており、前回調査の 36.0%と比較して 1.7 ポイント低下している。

○一方、「参加したいが、きっかけがないので参加していない」が 8.2%、「参加したいが、時間が取れないので参加していない」が 22.0%、「参加したいが、健康面の問題で参加し

ていない」が 8.3%と、参加したいという希望があるものの参加していない人は合わせて 38.5%を占めている。

○また「興味がないので、参加していない」が 25.3%になっている。

○前回調査に比べ、参加している人は 1.7 ポイント低下し、参加しない人は 3.4 ポイント上昇しており、自治活動の重要性の啓発など、参加を促すための方策を考える必要がある。

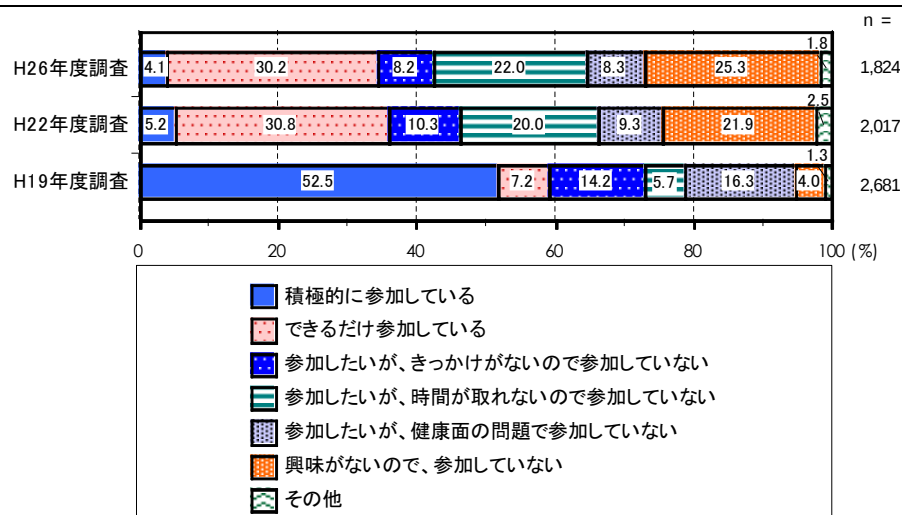


図 3-4-1-1 自治活動の参加状況 [無回答を除く集計]

【地区別】

○新城地区では、参加率が 34.0%で市平均に比較してわずかに低い、「参加したいが、きっかけがないので参加しない」の割合が他地区に比べて高くなっている。

○鳳来地区では、参加率が 32.1%で 3 地区の中で最も低くなっている。特に興味がないので、参加していない」や「参加したいが、時間が取れないので参加しない」の割合が他地区に比べて高くなっている。

○作手地区では、参加率が 43.6%で、他地区に比べて極めて高くなっている。

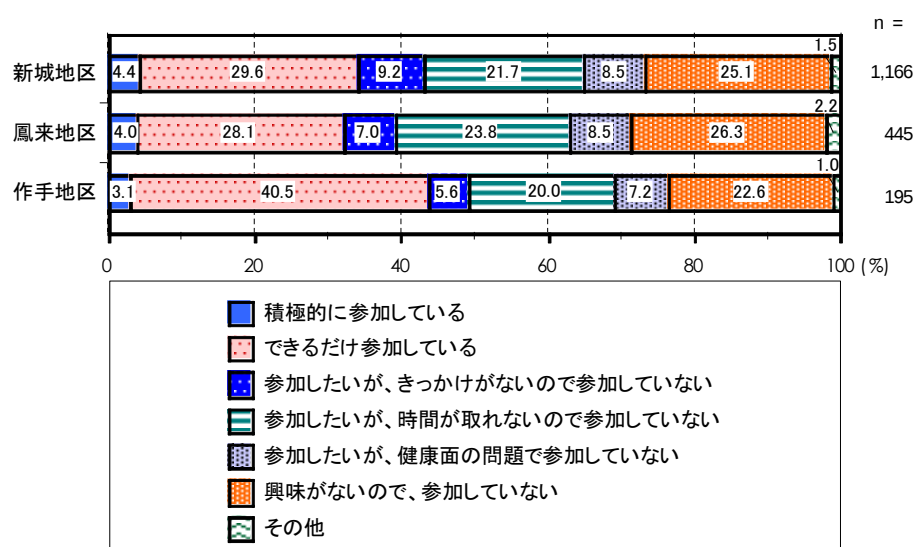


図 3-4-1-2 自治活動の参加状況（地区別 [無回答を除く集計]）

【年齢別】

○若い世代は参加率が低く、18～29 歳では 16.4%となっている。特に「興味がないので、参加しない」が 38.4%、「参加したいが、時間が取れないので参加していない」が 30.2%と他の年齢層に比べて高く、住民自治活動への参加に消極的な人が多くなっている。しかし、前回調査では参加率が 13.3%で、また「興味がないので、参加しない」が 41.7%であり、少しは参加率が高まっている。

○70 歳以上では、参加率は 44.5%と、他の年齢層に比べて最も高くなっている。一方で「参加したいが、健康面の問題で参加していない」が 32.4%を占め、時間はあるが健康面を理由に参加できない人が多くなっている。

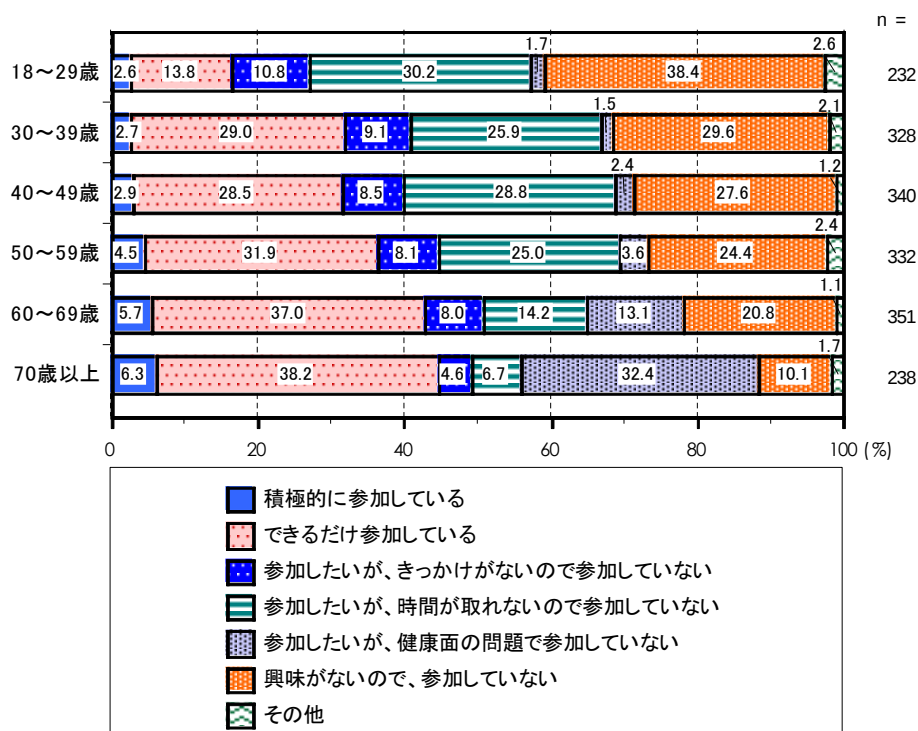


図 3-4-1-3 自治活動の参加状況（年齢別 [無回答を除く集計]）

4-2. 自治活動への参加のきっかけ

問 12-2 問 12 で3.を選択された方にお聞きします。どのようなきっかけがあれば参加できると思いますか。1つだけ○印をつけてください。

◆自治活動への参加のきっかけとして、チラシによる活動状況の情報提供が求められています。

○問 12 で「参加したいが、きっかけがないので参加していない」と回答した人（150 人）に対して、どのようなきっかけがあれば参加できるかを尋ねたところ、「チラシによる活動状況の情報提供」が 43.6%で最も高く、次いで「活動の見学会」が 24.2%、「ホームページによる活動状況の情報提供」が 15.4%、「説明会の開催」が 13.4%となっている。

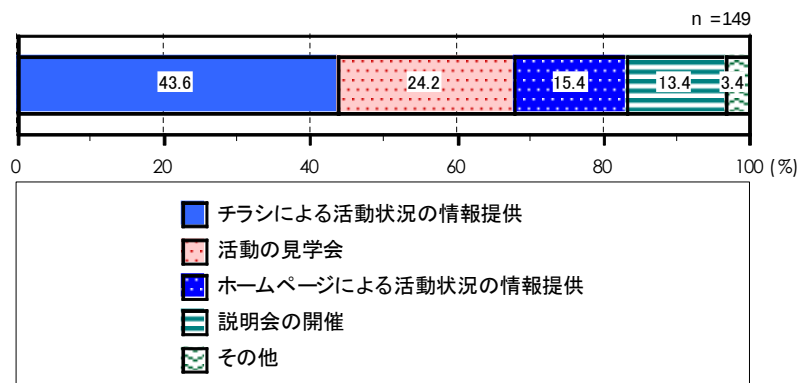


図 3-4-2-1 自治活動の参加のきっかけ

4-3. 自治活動に時間が取れない理由

問 12-3 問 12 で4.を選択された方にお聞きます。時間が取れない主な理由を教えてください。

◆時間が取れない理由として、仕事が忙しく参加できない人が多くなっています。

○問 12 で「参加したいが、時間が取れないので参加していない」と回答した人（402 人）に対して、時間がとれない理由を尋ねたところ、「仕事が忙しく参加できない」が 65.5%で最も高く、次いで「家事、子育てや介護に忙しく参加できない」が 24.2%、「趣味や家族サービスに時間が必要なため参加できない」が 8.3%となっており、都合の良い時間などに参加できるようにするなどの対応を考えていくことが求められる。

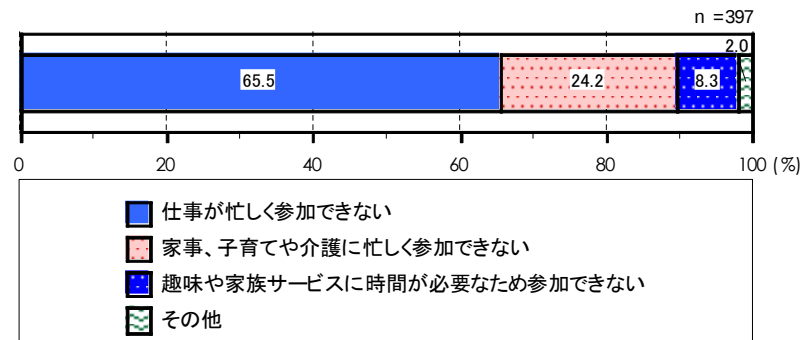


図 3-4-2-2 自治活動に時間が取れない理由

5. 少子化対策

問 13 この地域の少子化対策に有効と思うものを3つまで○印をつけてください。

◆少子化対策として、「病院、診療所の充実」、「若者の定住のための就職支援」、「子育て世代に対する手当や医療費無料対象年齢引き上げなどの経済的支援」が求められています。

○少子化対策に有効なものとして「病院、診療所の充実」が 63.2%で最も高く、次いで「若

者の定住のための就職支援」が 58.9%、「子育て世代に対する手当や医療費無料対象年齢引き上げなどの経済的支援」が 37.5%となっている。

○前回調査に比べて、医療サービス等の充実が図られつつあることから、「病院、診療所の充実」が 74.3%から 63.2%へと 11.1 ポイント低下している。また「子育て世代に対する手当や医療費無料対象年齢引き上げなどの経済的支援」が 32.7%から 37.5%へと 4.8 ポイント上昇しており、子どもを産み、育てていけるような経済的な支援が少子化対策として求められている。

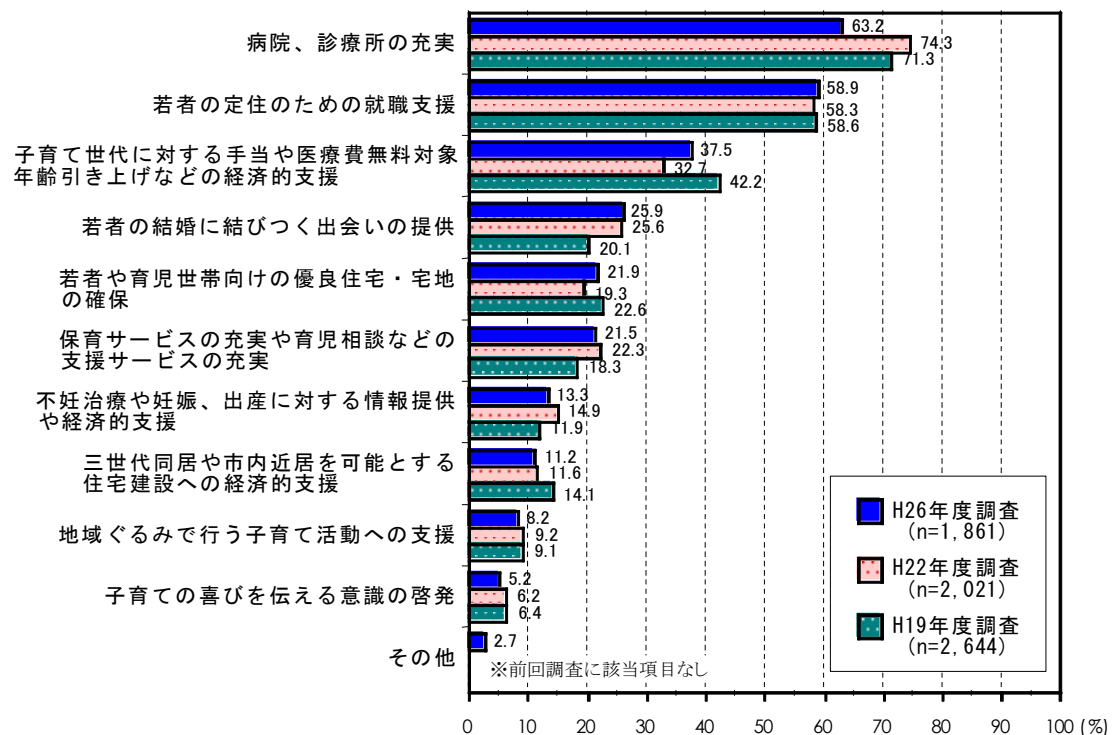


図 3-5-1 有効と思われる少子化対策 [無回答を除く集計]

【地区別】

○新城地区では、「病院、診療所の充実」が 67.7%で最も高くなっている。また、「子育て世代に対する手当や医療費無料対象年齢引き上げなどの経済的支援」、「保育サービスの充実や育児相談などの支援サービスの充実」が他地区に比べて高くなっている。

○鳳来地区では、「若者の定住のための就職支援」が最も高くなっている。また、「若者や育児世帯向けの優良住宅・宅地の確保」が他地区に比べて高くなっている。

○作手地区では、「若者の定住のための就職支援」が 72.6%で最も高く、「若者の結婚に結びつく出会いの提供」が他地区に比べて高くなっている。

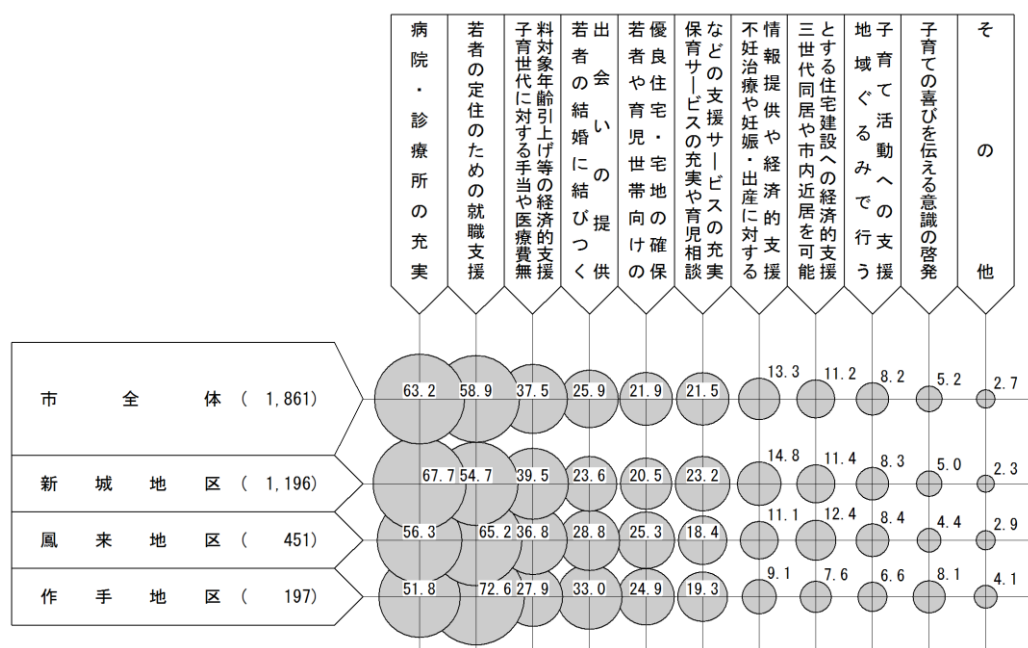


図 3-5-2 有効と思われる少子化対策（地区別 [無回答を除く集計]）

【年齢別】

- 若い世代では、「子育て世代に対する手当や医療費無料対象年齢引き上げなどの経済的支援」、「保育サービスの充実や育児相談などの支援サービスの充実」、「若者や育児世帯向けの優良住宅・宅地の確保」との回答が他の年齢層に比べて高く、子育て支援の充実が求められている。
- 高齢の世代では、「若者の定住のための就職支援」、「若者の結婚に結びつく出会いの提供」との回答が若い世代に比べて高く、就職と結婚の対策が求められている。
- 50～59 歳では「病院・診療所の充実」が 71.1%と最も高くなっている。

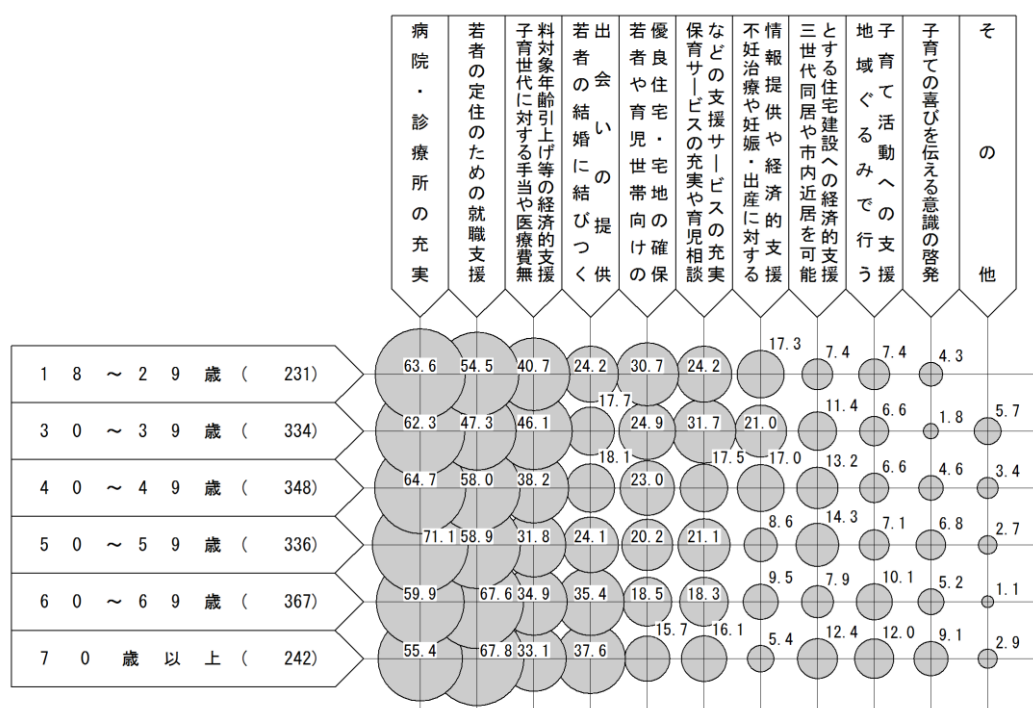


図 3-5-3 有効と思われる少子化対策（年齢別 [無回答を除く集計]）

6. 将来への不安

問 14 あなたは将来に対して、何に不安を感じますか。3つまで○印をつけてください。

◆半数以上の人が少子高齢化、過疎化、医療・福祉サービスの低下を将来の不安として考えています。

○将来への不安として、「医療・福祉サービスの低下」が 52.0%で最も高く、次いで「少子高齢化の進行」が 51.7%、「地域の過疎化」が 50.7%と、半数以上の人が少子高齢化、過疎化、医療・福祉サービスの低下を不安と考えている。

○前回調査と比較して、医療サービス等が充実してきたことから、「医療・福祉サービスの低下」が 67.2%から 52.0%へと 15.2 ポイント低下し、その一方、「少子高齢化の進行」は 44.5%から 51.7%へと 7.2 ポイント上昇、「地域の過疎化」は 40.5%から 50.7%へと 10.2 ポイント上昇するなど、少子高齢化、過疎化を不安と感じている人が増えている。

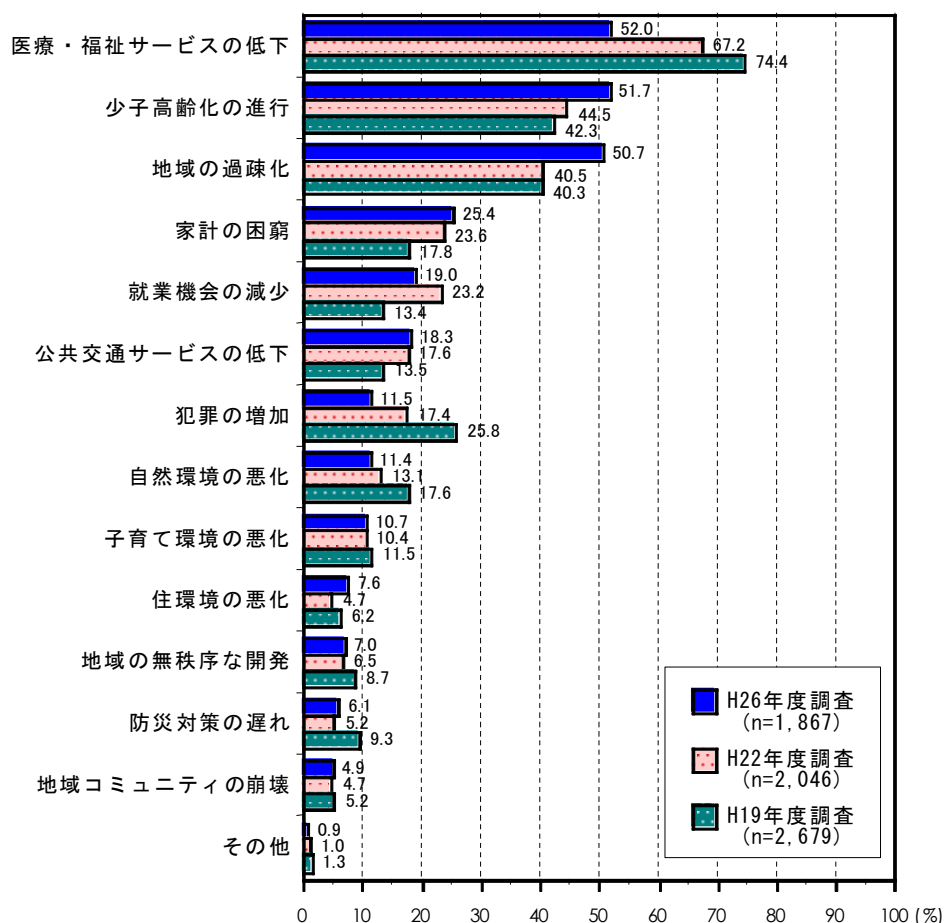


図 3-6-1 将来への不安〔無回答を除く集計〕

【地区別】

- 新城地区では、「医療・福祉サービスの低下」との回答が他地区に比べて高くなっている。
また、「家計の困窮」、「犯罪の増加」、「自然環境の悪化」、「地域の無秩序な開発」も他地区に比べて高くなっている。
- 鳳来地区では、「地域の過疎化」との回答が他地区に比べて高くなっている。また、「公共交通サービスの低下」、「住環境の悪化」も他地区に比べて高くなっている。
- 作手地区では、「少子高齢化の進行」、「就業機会の減少」、「子育て環境の悪化」、「防災対策の遅れ」、「地域コミュニティの崩壊」が他地区に比べて高くなっている。

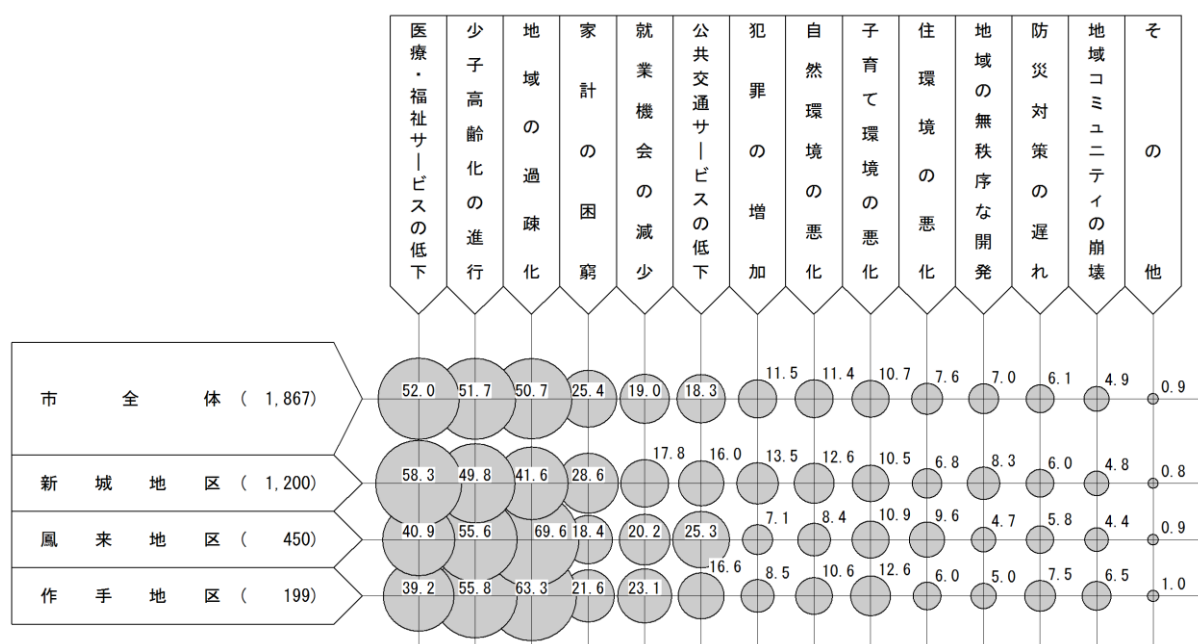


図 3-6-2 将来への不安（地区別 [無回答を除く集計]）

【年齢別】

- 若い世代では、「就業機会の減少」や「子育て環境の悪化」との回答が、他の年齢層に比べて高くなっている。
- 高齢の世代では、「少子高齢化の進行」や「地域の過疎化」との回答が、他の年齢層に比べて高く、特に 60～69 歳では「少子高齢化の進行」が、70 歳以上では「地域の過疎化」が最も高くなっている。
- 50～59 歳では、「医療・福祉サービスの低下」との回答が他の世代に比べて高くなっている。

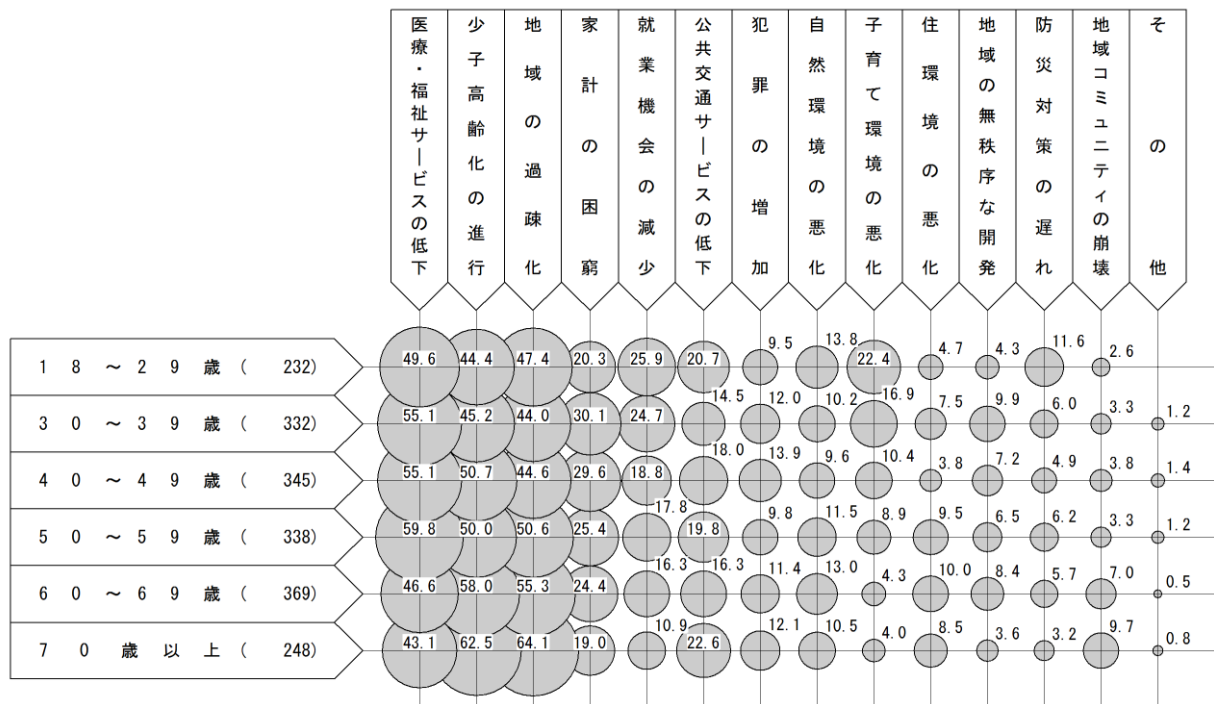


図 3-6-3 将来への不安（年齢別〔無回答を除く集計〕）

7-1. 公共サービスへの住民負担

問 15 公共サービスと住民の負担について、どのように思われますか。1 つだけ○印をつけてください。

◆公共サービスを維持・充実するためには、受益者負担が増えることをやむを得ないと考えている人や、住民でできることは住民で行う必要があると考えている人が多くなっています。

○公共サービスへの住民負担については、「公共サービスの種類によっては、サービスを受ける人の負担が増えることもやむを得ない」が 49.8%と最も高く、次いで「公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民負担が増えることもやむを得ない」が 31.0%と、厳しい財政状況の中、受益者負担が増えることをやむを得ないと考えており、住民の負担が増えても公共サービスを維持・充実させてほしいという意向が強くなっている。

○前回調査に比べて「公共サービスの種類によっては、サービスを受ける人の負担が増えることもやむを得ない」が 51.5%から 49.8%へと 1.7 ポイント低下し、その一方で「公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民負担が増えることもやむを得ない」が 26.6%から 31.0%へと 4.4 ポイント上昇しており、将来への不安（「少子高齢化の進行」や「地域の過疎化」など）が要因となり、住民負担もやむを得ないと回答していると思われる。公共サービスの維持・充実のため、使用料・手数料や減免措置などを見直し、受益者負担の適正化を進めることについて一定の理解が得られるものと思われる。

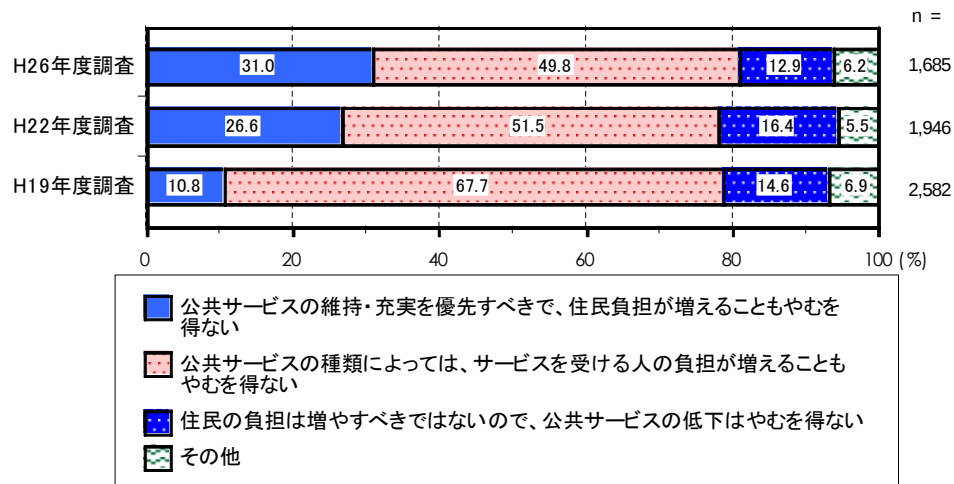


図 3-7-1-1 公共サービスと住民負担について〔無回答を除く集計〕

【地区別】

- 新城地区では、「公共サービスの種類によっては、サービスを受ける人の負担が増えることもやむを得ない」との回答が他地区に比べて高くなっている。
- 鳳来地区では、「公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民負担が増えることもやむを得ない」との回答が市平均に比べて高くなっている。
- 作手地区では、「公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民負担が増えることもやむを得ない」との回答が他地区に比べて高くなっている。

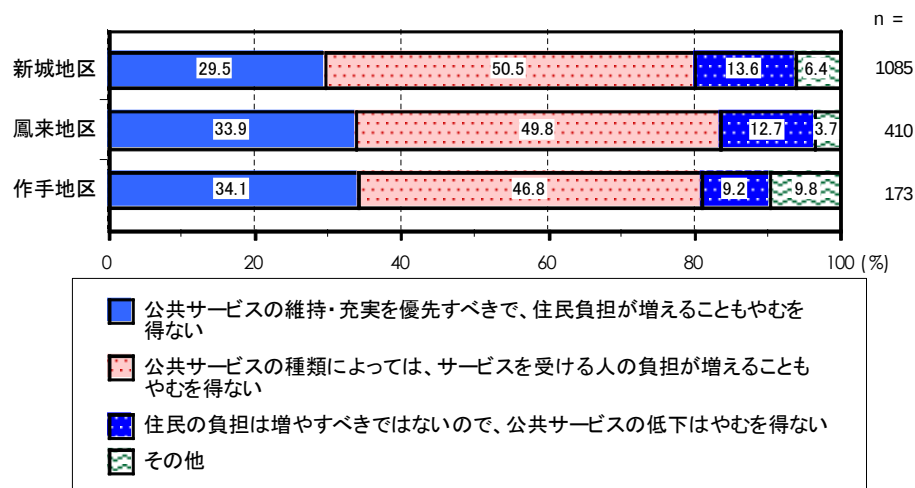


図 3-7-1-2 公共サービスと住民負担について（地区別〔無回答を除く集計〕）

【年齢別】

- 18～29 歳では、「住民の負担は増やすべきではないので、公共サービスの低下はやむを得ない」との回答が市平均に比べて高くなっている。
- 30～39 歳、40～49 歳では、「公共サービスの種類によっては、サービスを受ける人の負担が増えることもやむを得ない」との回答が市平均に比べて高くなっている。
- 50～59 歳では、「公共サービスの維持・充実を優先すべきで、住民負担が増えることもやむを得ない」との回答が市平均に比べて高くなっている。

むを得ない」との回答が市平均に比べて高くなっている。

○60～69 歳では、「住民の負担は増やすべきではないので、公共サービスの低下はやむを得ない」との回答が 16.9%で、他の年齢層に比べて最も高くなっている。

○70 歳以上では、「公共サービスの維持・充実に優先すべきで、住民負担が増えることもやむを得ない」との回答が 49.3%で最も高くなっている。

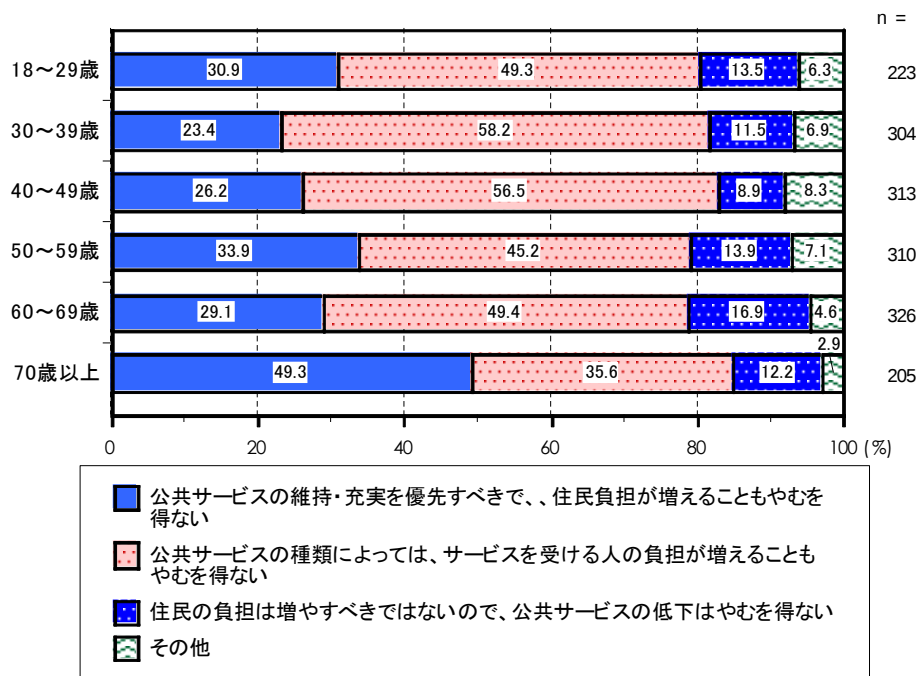


図 3-7-1-3 公共サービスと住民負担について（年齢別 [無回答を除く集計]）

7-2. 負担増やサービス低下がやむを得ない公共サービス

問 15-2 問 15 で2.や3.を選択された方にお聞きます。

負担増やサービス低下してもやむを得ないと思う公共サービスは何ですか。1 つだけ
○印をつけてください。

◆「福祉・健康分野」は住民の負担が増えてもやむを得ないと考えている人が、「総合的分野」はサービスが低下してもやむを得ないと考えている人が多くなっています。

○問 15 で「公共サービスの種類によっては、サービスを受ける人の負担が増えることもやむを得ない」と回答した人（839 人）に対して、負担増がやむを得ない分野を尋ねたところ、「福祉・健康分野」が 39.5%で最も高く、次いで「総合的分野」が 16.5%、「教育・文化・生涯学習分野」が 14.2%、「産業・経済・都市基盤分野」が 12.6%となっている。

○一方、問 15 で「住民の負担は増やすべきではないので、公共サービスの低下はやむを得ない」と回答した人（218 人）に対して、サービスが低下してもやむを得ない分野を尋ねたところ、「総合的分野」が 38.4%で最も高く、次いで「産業・経済・都市基盤分野」が 17.7%、「教育・文化・生涯学習分野」15.8%、「福祉・健康分野」が 14.8%となっている。

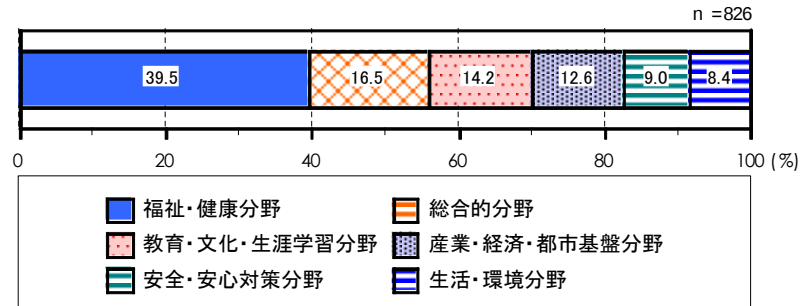


図 3-7-2-1 負担増もやむを得ない公共サービス

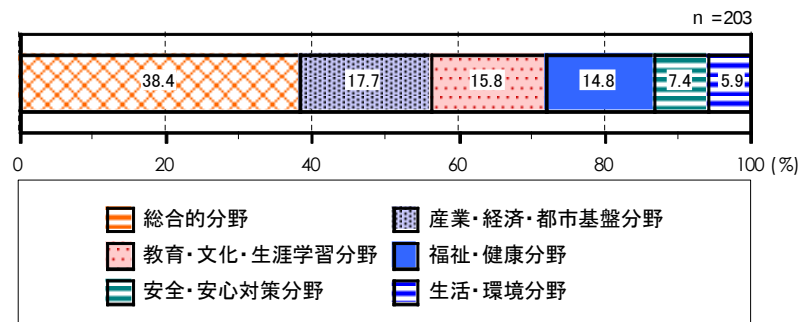


図 3-7-2-2 サービス低下もやむを得ない公共サービス

8-1. 新都市の将来の姿

問 16 新都市が将来どのようなまちになったらよいと思いますか。3つまで○印をつけてください。

◆「子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち」が多くの人に望まれています。

○将来の新都市のまちとして、「子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち」が 61.3%でも最も高くなっている。次いで「水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち」が 49.2%、「工業や商業の活力を誘発し、新規産業の育成を図る雇用機会の充実したまち」が 26.3%、「道路、上下水道などの生活環境や通勤通学に便利で住みやすいまち」が 24.3%などとなっており、健康に暮らせるまち、自然や環境を大切にするまち、産業が活発なまち、住みやすいまちを求めている。

○前回調査でも上記4項目が上位を占めていたが、今回は「子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち」「水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち」、「道路、上下水道などの生活環境や通勤通学に便利で住みやすいまち」のポイントがいずれも低下している。しかし「工業や商業の活力を誘発し、新規産業の育成を図る雇用機会の充実したまち」は 22.7%から 26.3%へと 3.6 ポイント上昇しており、産業の振興や雇用の場の確保を求めている人が多くなっている。

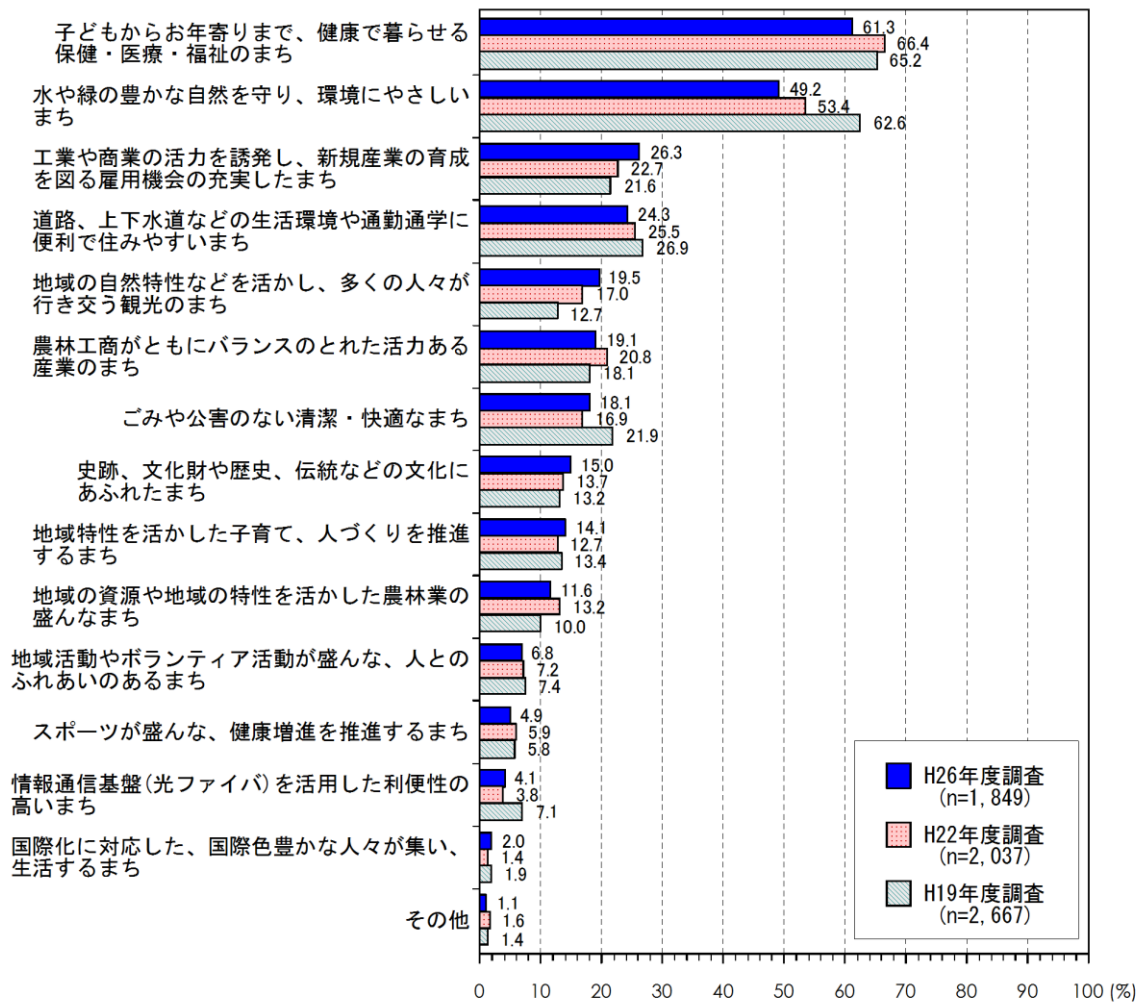


図 3-8-1-1 希望する新都市の将来の姿〔無回答を除く集計〕

【地区別】

- 新城地区では、市平均と比べて大きな差異は見られないが、「子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち」、「水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち」、「ごみや公害のない清潔・快適なまち」が、他地区に比べて高くなっている
- 鳳来地区では「工業や商業の活力を誘発し、かつ新産業の育成を図る雇用機会の充実したまち」、「道路、上下水道などの生活環境や通勤通学に便利で住みやすいまち」、「史跡、文化財や歴史、伝統などの文化にあふれたまち」が、他地区に比べて高く、雇用の場と生活の利便性を高めつつ、歴史と伝統を守ることが望まれている。
- 作手地区では、「地域の資源や地域の特性を活かした農林業の盛んなまち」、「農林工商がともにバランスのとれた活力ある産業のまち」が、他地区に比べて高く、農林業を中心に産業が盛んなまちにしていくことが望まれている。

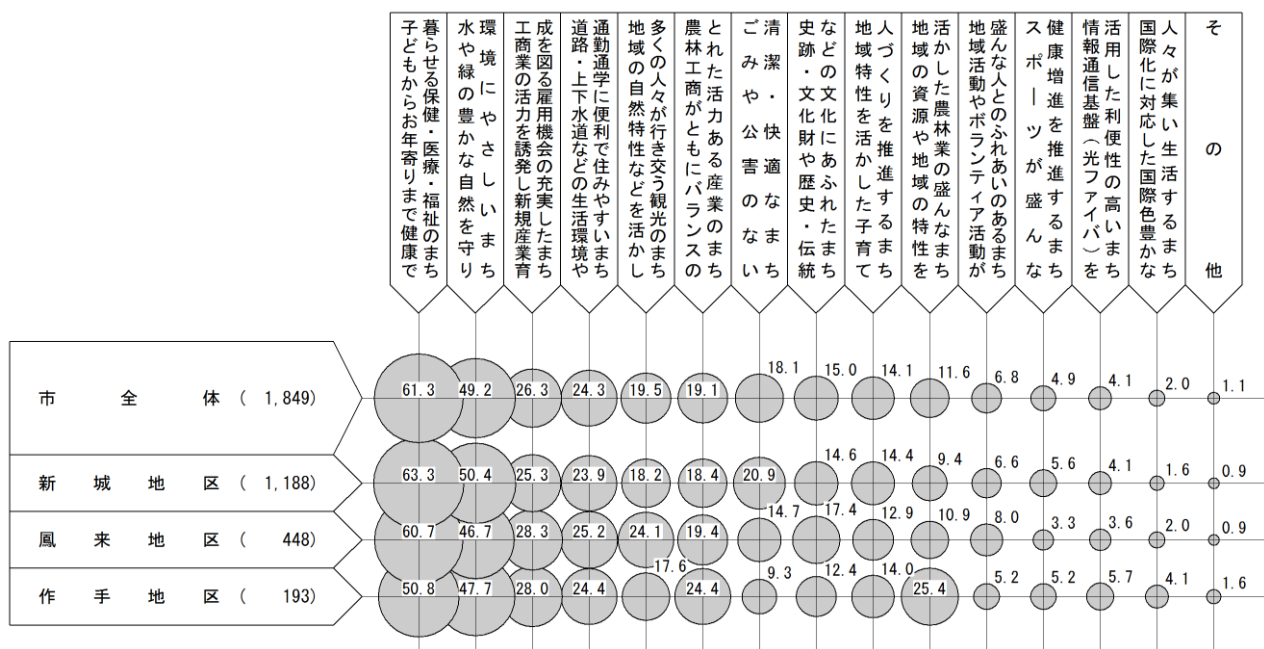


図 3-8-1-2 希望する新都市の将来の姿（地区別 [無回答を除く集計]）

【年齢別】

○どの年齢層も「子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち」、次いで「水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち」との回答の割合が、年齢による差はあまり見られないが、「地域特性を活かした子育て、人づくりを推進するまち」は、若い世代ほど回答の割合が高くなっている。

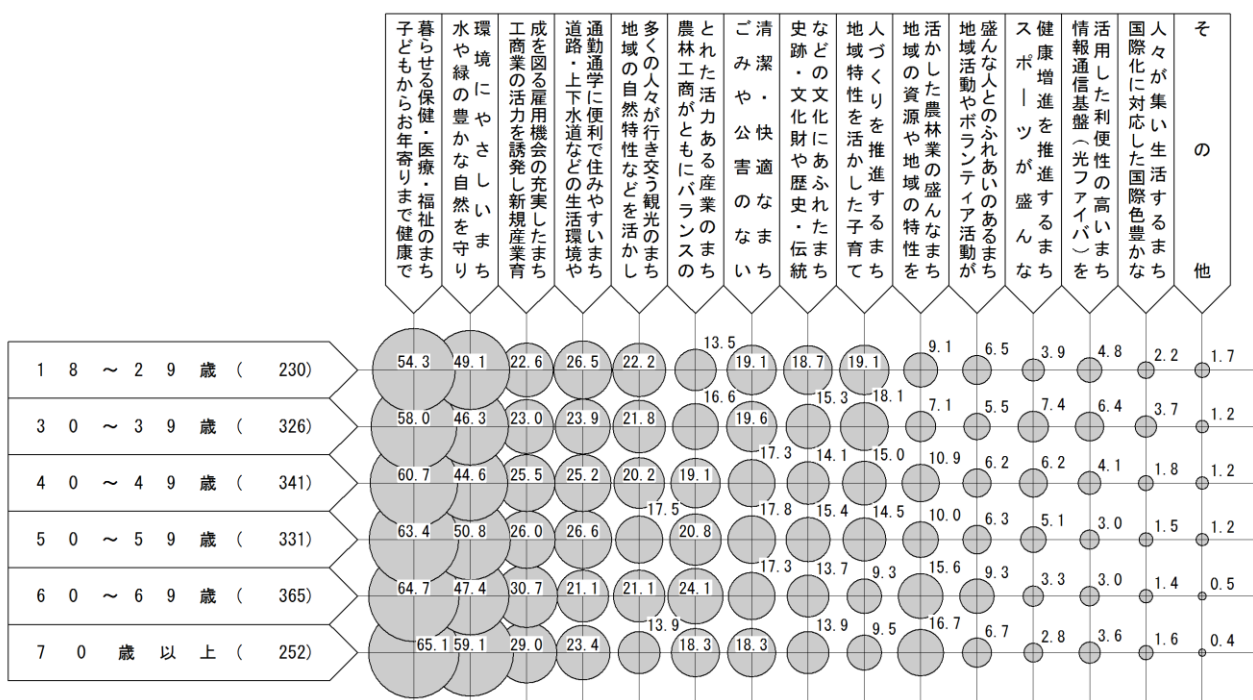


図 3-8-1-3 希望する新都市の将来の姿（年齢別 [無回答を除く集計]）

8-2. 利用したい情報サービス

問 16-2 問 16 で 14.を選択された方にお聞きします。身近で利便性を感じられる情報システム（Webサービス）の展開において、利用したいサービスを3つまで○印をつけてください。

◆情報システムを活用した介護支援のサービスを利用したい人が多くなっています。

○問 16 で「情報通信基盤（光ファイバ）を活用した利便性の高いまち」と回答した人（76人）に対して、情報システムとして利用したいサービスを尋ねたところ、「介護支援」が42.1%で最も高く、高齢化の進展で介護を必要とする人が増え、どこからでも手軽に情報システムを活用して介護支援が受けられるようになることなどが求められてきていると思われる。

○また、次いで「公共施設予約」、「防災・防犯支援」が34.2%となっている。自宅等から施設予約ができる利便性を求めていることや、災害情報などの緊急情報をリアルタイムに得たいニーズが高くなっている。

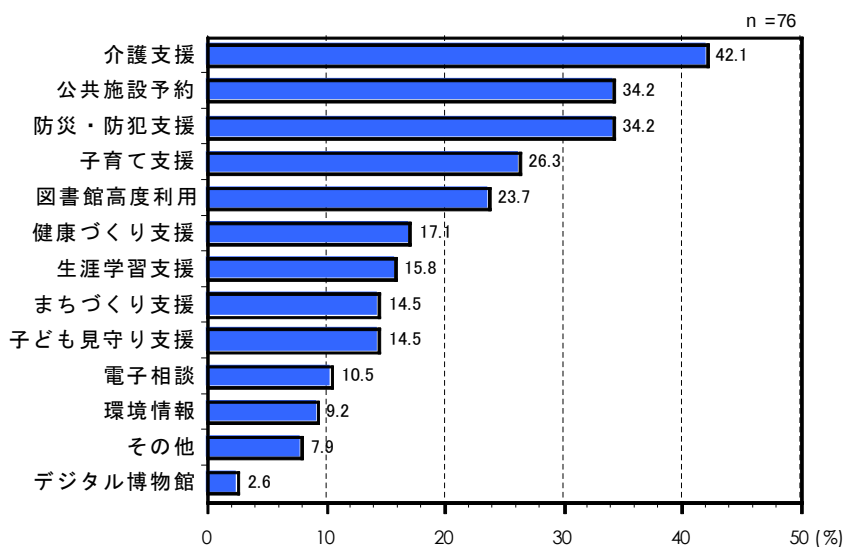


図 3-8-2-1 利用したい情報サービス

9. 新都市の魅力

問 17 あなたが、おすすめの新都市の魅力、または、今後、新都市をPRするために効果的だと思うものを3つまで○印をつけてください。

◆豊かな自然やそれを生かしたイベントを新都市の魅力と感じている人が多く、さらに新東名高速道路や三遠南信自動車道の開通や、スポーツイベントを新しい魅力につなげていくことを望む人が増えてきています。

- 新城市の魅力については、「滝、清流、湿原、山、森林、温泉などの地域資源」が 55.2%で最も高く、豊かな自然を新城市の魅力と考えている人が多くなっている。
- 次いで「新東名高速道路や三遠南信自動車道の開通による地域の魅力の向上」が 49.1%と、広域幹線道路の開通による活性化への期待が高まっており、前回調査に比べて 39.6%から 49.1%へと 9.5 ポイントも上昇している。
- なお、前回調査に比べて「滝、清流、湿原、山、森林、温泉などの地域資源」と回答した人が 64.3%から 55.2%へと 9.1 ポイント、「さくらまつり、もみじまつり、つくで祭りなどの季節を活かしたイベント」と回答した人が 45.2%から 42.2%へと 3 ポイント低下する一方、「新城ラリー、ツール・ド・新城などの地勢を活かしたスポーツイベント」と回答した人が 16.3%から 25.6%へと 9.3 ポイント上昇するなど、スポーツイベントを新しい新城市の魅力として評価する人が増えてきている。

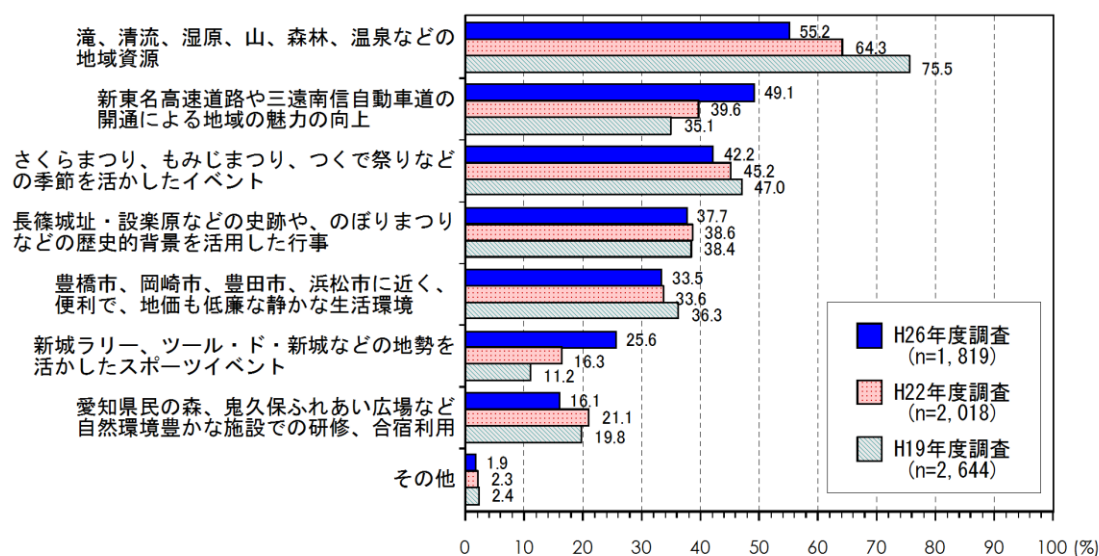


図 3-9-1 新城市の魅力・PRポイント〔無回答を除く集計〕

【地区別】

- 新城地区では、「新城ラリー、ツール・ド・新城などの地勢を活かしたスポーツイベント」との回答が他地区に比べて高くなっている。
- 鳳来地区では、「滝、清流、湿原、山、森林、温泉などの地域資源」や「新東名高速道路や三遠南信自動車道の開通による地域の魅力の向上」、「長篠城址・設楽原などの史跡や、のぼりまつりなどの歴史的背景を活用した行事」との回答が他地区に比べて高く、地区が持っている自然や歴史・文化や、整備が進む新東名高速道路を活かしていくことが望まれている。
- 作手地区では、「さくらまつり、もみじまつり、つくで祭りなどの季節を活かしたイベント」、「豊橋市、岡崎市、豊田市、浜松市に近く、便利で、地価も低廉な静かな生活環境」、「愛知県民の森、鬼久保ふれあい広場など自然環境豊かな施設での研修、合宿利用」との回答が他地区に比べて高く、周辺都市へのアクセスの良さと地域のイベントや施設を活かしていくことが望まれている。

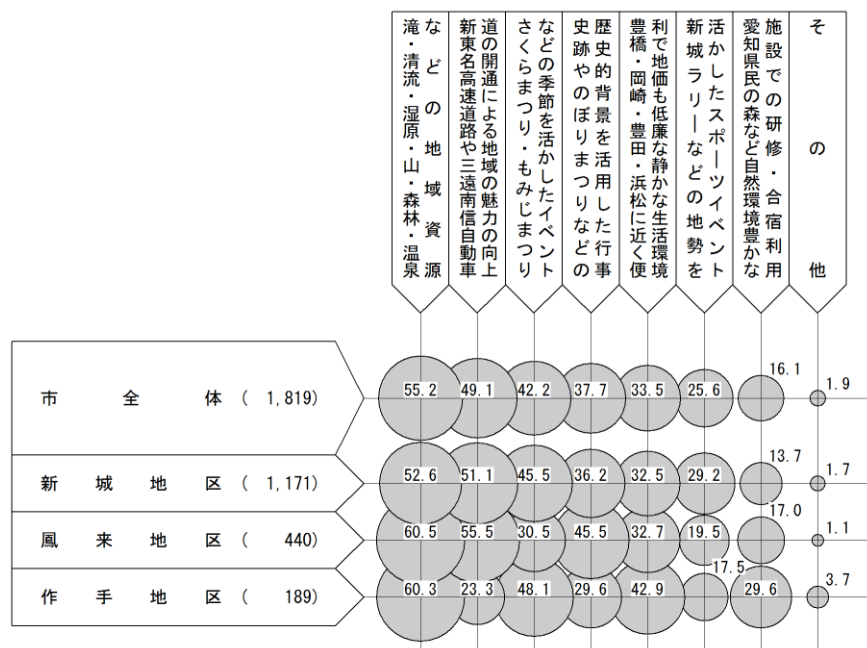


図 3-9-2 新城市の魅力・PRポイント（地区別 [無回答を除く集計]）

【年齢別】

○年齢が高くなるほど、「新東名高速道路や三遠南信自動車道の開通による地域の魅力の向上」との回答が高くなっており、特に60～69歳では他の項目に比べ最も高くなっている。
○また、若い世代ほど、「新城ラリー、ツール・ド・新城などの地勢を活かしたスポーツイベント」との回答が高くなっている。

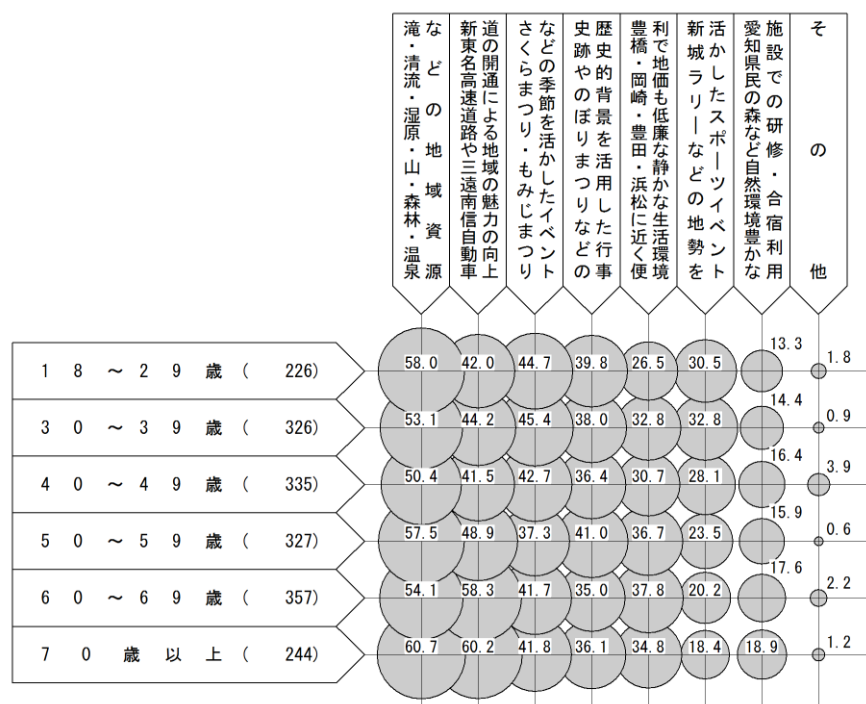


図 3-9-3 新城市の魅力・PRポイント（年齢別 [無回答を除く集計]）

第4章 市役所職員について

1. 市役所職員の印象

問 18 あなたの市役所職員に対する印象について、あてはまるところに○印をつけてください。

◆常に住民に対して親切な対応と笑顔で接している職員の印象を持っている人が多くなっています。

○市役所職員に対する印象について聞いたところ、「そのとおり」、「ややそのとおり」を合わせた肯定的な評価が高い項目は「常に住民に対して親切な対応と笑顔で接している」が 63.8%で最も高く、次いで「集落やコミュニティ、消防団、青年団、子ども会、PTA等の地域、組織で活躍している」が 59.3%、「地域に誇りと愛着を持っている」が 58.3%、「専門的な知識や資格を持ち住民からの問い合わせや相談に的確に応えられる」が 56.0%となっている。

○その一方で、肯定的な評価が低かった項目は「専門以外の幅広い知識を持ち豊かな発想力で物事を判断できている」が 38.9%で最も低く、次いで「常にコスト意識を持って仕事に臨んでいる」が 43.0%となっている。

○前回調査に比べて「常に住民に対して親切な対応と笑顔で接している」は 61.0%から 63.8%へと 2.8 ポイント上昇している。また、「専門的な知識や資格を持ち住民からの問い合わせや相談に的確に応えられる」は、49.9%から 56.0%へと 6.1 ポイント上昇している。なお、肯定的な評価が低かった「専門以外の幅広い知識を持ち豊かな発想力で物事を判断できている」も 33.4%から 38.9%へと 5.5 ポイント上昇、「常にコスト意識を持って仕事に臨んでいる」も 37.5%から 43.0%へと 5.5 ポイント上昇するなど、全体的に肯定的な評価のポイントは高まっており、市役所職員の印象は前回に比べて良くなっていると思われる。

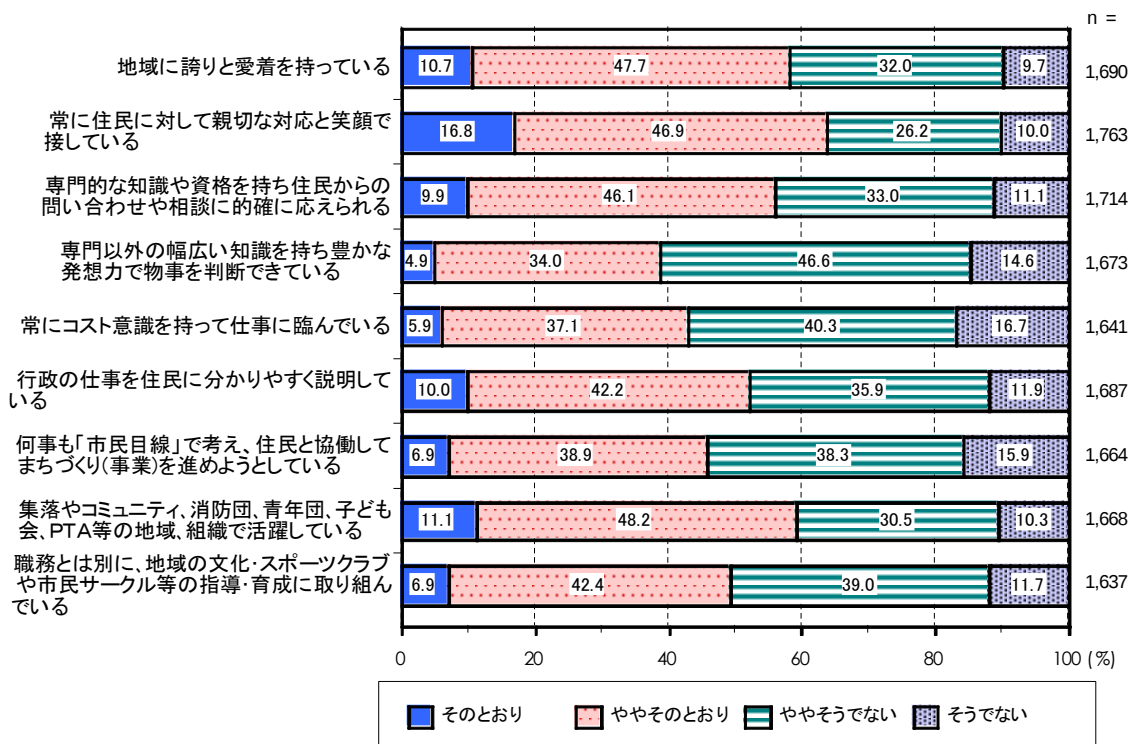


図 4-1-1 市役所職員の印象〔無回答を除く集計〕

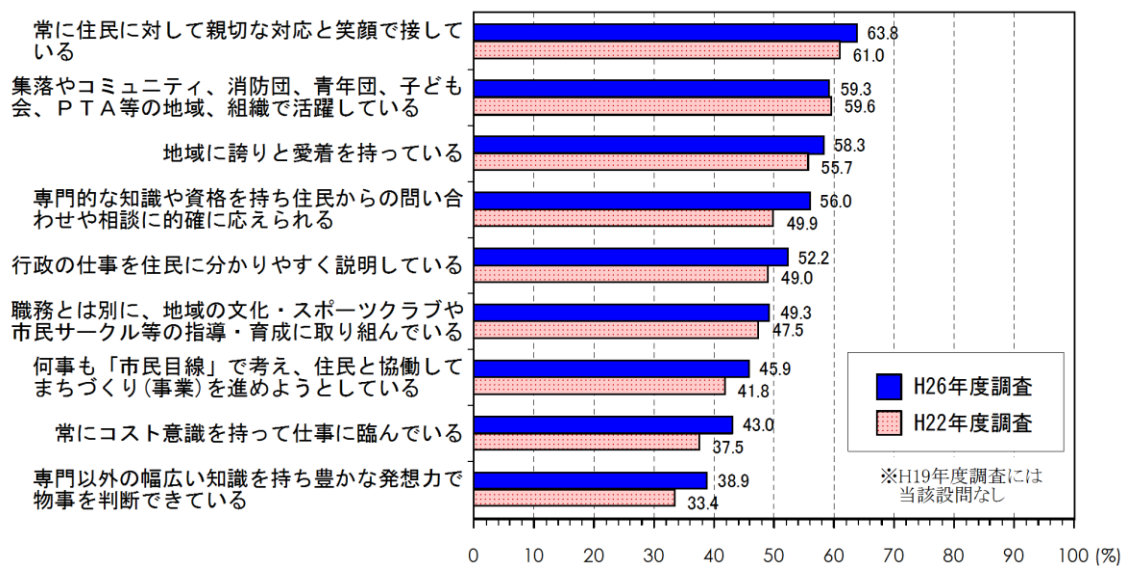


図 4-1-2 市役所職員の印象で「肯定的評価」が高い項目

※「そのとおり」、「ややそのとおり」の回答数を合計して再集計しているため、上記のグラフの数値を足しても四捨五入の関係で一致しない場合がある。

1-2. 心に残る市役所職員の対応

問 18-2 上記のような市役所職員の印象に関して、あなたの心に深く残るような体験や出来事がこれまでにあれば、具体的にご記入ください。

○心に深く残る市役所職員との体験や出来事については、市役所や支所での思いやりや住民へのサービス性について意見が多くなっている。

表 4-1-2-1 心に残る市職員の対応

	場面	良い印象	悪い印象	その他
特定の分野や人々に偏らない考え方	市役所・支所	0	3	0
思いやりや住民へのサービス性	市役所・支所※1	82	124	10
	市民病院	4	1	0
	その他の公共施設	5	4	0
住民との一体感や協力	地域活動	7	5	0
信念や苦労をいとわぬ懸命さ	市役所・支所	6	1	0
	学校教育関係	1	0	0
	市や商工会のイベント	2	0	0
改革やこれまでにない新規性	市役所・支所	2	1	0
その他(専門的知識を持ち、住民からの問い合わせや相談に的確に応えられる)	市役所・支所	4	17	0
その他	市役所・支所	1	5	1
	市や商工会のイベント	2	0	0
	地域活動	1	1	0
	プライベート	4	4	0
設問外		0	7	0
計		121	173	11
		305		

※1 思いやりや住民へのサービス性(場面:市役所・支所)の内訳

《良い印象》心に残った体験談・・・39 件

日常の印象・・・38 件

以前より良くなった・・・5 件

《悪い印象》応対(体験談)・・・44 件

応対(日常の印象)・・・23 件

やる気がない、仕事をしているのだろうか?・・・22 件

処理が遅い、一度で用事が済まない(体験談)・・・18 件

言葉遣い(体験談)・・・7 件

守秘義務が守られていない・・・4 件

以前より悪くなった・・・1 件

その他・・・5 件

※なお、回答は 305 人から 305 の意見がありました。

第5章 新東名高速道路のIC設置による変化について

1. 期待すること

問 19 新東名高速道路のインターチェンジ（IC）が市内にできることで、新城市はどのように変わるとお考えですか。期待することと、不安に思うことについてご自由にお書きください。

○新東名高速道路のインターチェンジができることで期待することは、観光客が増加することなど、観光面での期待が最も高くなっている。また、雇用の促進や企業誘致などへの期待など、産業面での期待も高くなっている。

表 5-1-1 IC設置による変化で期待すること

	意見数
観光	333
観光客が増加すること	101
観光により地域が活性化されること	60
知名度があがる	44
新城市の良さ、観光情報の発信	30
道の駅に期待	30
来訪者が増えることでの増収	27
観光地の整備、新たな観光資源の開発	16
名物・特産品の開発	11
イベントが盛んになる	10
サービスエリアの設備に期待	4
産業	309
商業の振興	81
雇用の促進に期待	69
企業誘致に期待	63
物流の発展と相乗効果	36
経済効果	31
地元産業の活性化	13
商工業の活性化	13
農業の振興	3
快適に暮らせるまち	157
まちの活性化、発展	97
定住者の増加	41
定住者の増加（ベッドタウン）	15
住環境が良くなる	4
交通体系	143
移動の利便性	96
生活圏の拡大	21
道路整備	14
友人・親族との交流がしやすくなる	5
渋滞の解消	4
公共交通整備	3
安全対策	3
防犯面	2

災害時援護	1
医療体系	1
自然環境の保全	1
その他期待すること	25
市外の人に来ていたいと思わせるまちづくり	15
その他	10
その他(期待なし)	74
期待することはない	61
インターチェンジができて変わらない	7
インターチェンジができて自分には影響がない	6
計	1,046

※回答は 923 人から 1,046 の意見がありました。

2. 不安に思うこと

問 19 新東名高速道路のインターチェンジ（ＩＣ）が市内にできることで、新城市はどのように変わるとお考えですか。期待することと、不安に思うことについてご自由にお書きください。

○新東名高速道路のインターチェンジができることで不安に思うことは、交通事故の増加や治安などの安全対策が最も多くなっている。また、排気ガスなどの公害、交通量の増加や渋滞、騒音などを懸念する意見が多くなっている。

表 5-2-1 ＩＣ設置による変化で不安に思うこと

	意見数
安全対策	419
交通事故の増加	209
治安	205
災害と発生時の対応	5
自然環境の保全	138
排気ガスなどの公害	84
乱開発やそれにとまう自然環境の問題	45
人害	9
観光	123
通過だけになる	46
観光客が来ない(資源が乏しい)	30
ストロー現象の懸念	19
道の駅の設備・経営	12
利用者が増えない	7
観光客が来ない(PRの必要性)	4
観光客が来ない(景観づくりの必要性)	2
その他	3
交通体系	113
交通量の増加、渋滞	98
道路整備の必要性	9
公共交通	4
その他	2
快適に暮らせるまち	100
騒音	65

	市街地の空洞化や地域格差の拡大	15
	人口減少	9
	来訪者のマナー	4
	定住につながらない	4
	住環境の悪化	3
廃棄物対策		66
	ゴミの増加、ポイ捨て	58
	産業廃棄物の問題	8
産業		42
	消費者の流出	10
	商工業が発展しない	8
	経済効果が出ない	7
	地元産業の衰退	6
	企業誘致の低迷	5
	望まない企業の進出	4
	その他	2
健康に暮らせるまち		7
	医療体系	5
	健康被害	2
歴史文化財の継承		1
青少年健全育成		1
その他不安に思うこと(行政)		26
	財政運営	14
	市政	7
	税金が増えること	5
その他不安に思うこと		19
	インターチェンジができてても変化がないこと	17
	その他	2
その他(不安なし)		32
計		1,087

※回答は 897 人から 1,087 の意見がありました。